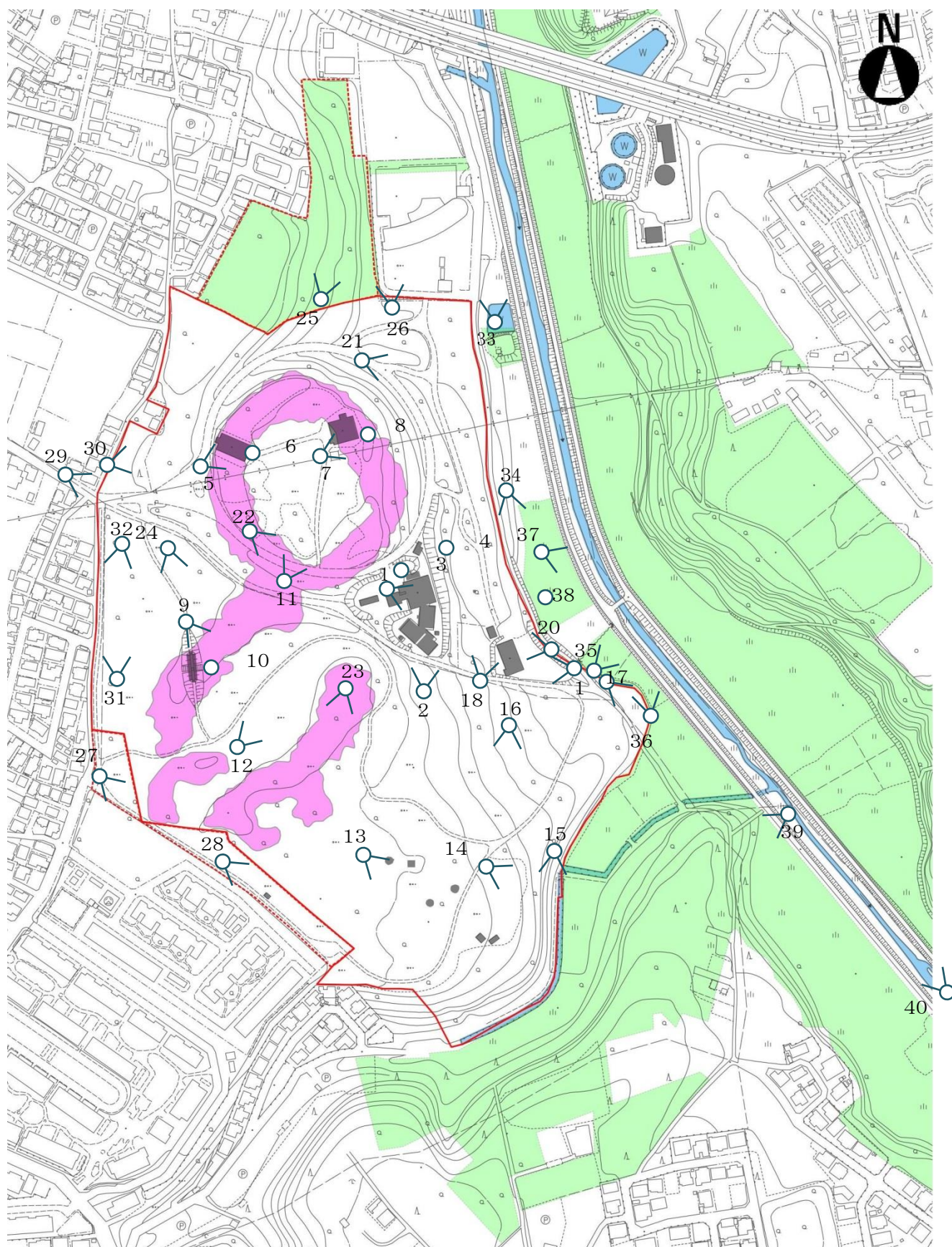


卷 末 資 料

- 卷末資料1 史跡現況写真
- 卷末資料2 千葉市の現行施策(抜粋)
- 卷末資料3 社会的環境
- 卷末資料4 博物館来館者推移
- 卷末資料5 ボーリングデータ
- 卷末資料6 自然環境文献調査
- 卷末資料7 文献一覧
- 卷末資料8 新聞記事見出し一覧
- 卷末資料9 文化財保護法(抜粋)



卷末図 1-1：現場状況写真撮影箇所



写真1:加曽利貝塚博物館正面



写真2:博物館と収蔵庫



写真3:博物館脇のトイレ



写真4:園路脇のトイレ



写真5:北貝塚貝層断面観覧施設外観



写真6:北貝塚貝層断面観覧施設内部



写真7:北貝塚住居跡群観覧施設外観



写真8:北貝塚住居跡群観覧施設内部



写真9:南貝塚貝層断面観覧施設外観



写真10:南貝塚貝層断面観覧施設内部



写真11:北貝塚中央部の様子



写真12:南貝塚中央部の様子



写真13:復原集落の様子



写真14:竪穴住居跡



写真15:東傾斜面の緑地



写真16:緩斜面の草地保全地区



写真17: 船着場推定地と指定地内を横切る道路



写真18: 大型建物跡



写真19: 旧大須賀家住宅



写真20: 土器づくり同好会工房(同好庵)



写真21: 北貝塚の舗装園路



写真22: 北貝塚の舗装園路とベンチ



写真23: 大谷石による貝層範囲の表示(南貝塚)



写真24: 南貝塚の未舗装園路



写真25:平成28年度追加指定範囲(北側)



写真26:平成28年度追加指定範囲(北側)



写真27:平成28年度追加指定範囲(南側)

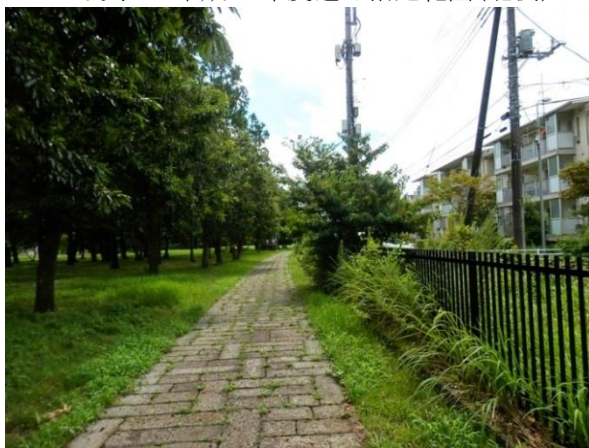


写真28:平成28年度追加指定範囲(南側)



写真29:史跡正門



写真30:駐車ひろば



写真31:史跡西側の歩道



写真32:史跡西側の道路



写真33:北側に隣接する桜木園側の出入り口



写真34:史跡東側の道路



写真35:坂月川へ下りる畦道



写真36:史跡東側の谷津



写真37:坂月川を挟んで対岸の緑地



写真38:湧水が染み出る段丘の際



写真39:縄文ほおじろの森入口



写真40:坂月川下流から史跡方面を望む

巻末資料2 千葉市の現行施策(抜粋)

東京湾の水辺と下総台地^{しもうさだいち}の豊かな緑に囲まれた千葉市は、潤いのある緑と水辺のある都市生活を末永く営みたいという願いを実現するため、昭和59(1984)年10月20日に「緑と水辺の都市宣言」を行いました。この宣言をひとつの拠り所として、市政の基本理念や基本目標を掲げた「千葉市基本構想」を最上位とする計画体系を構築しています。

『緑と水辺の都市宣言』(昭和59(1984)年10月20日)

【宣言全文】

私たちは、生命をはぐくみ文化を支える緑と水辺に恵まれた美しい環境のなかに住みたいと願う。千葉市は、東京湾の水辺と下総台地に広がる豊かな緑に囲まれ、縄文の昔から、恵まれた自然環境のなかで、健やかに活力に満ちた生活が営まれてきた。

私たちは、この千葉市に住むことを誇りとし、都市づくりの総べてにわたって、自然との調和を求めつつ、この緑と水辺を千葉市の個性にまで高め、これを次代に引き継ぎたいと思う。

このため、市民の総力をあげて、豊かな緑ときれいな水辺の都市づくりをすすめることを誓い、ここに、私たちの郷土千葉市を「緑と水辺の都市」とすることを宣言する。

『千葉市基本構想』 目標年次:21世紀を展望(平成11(1999)年12月議決)

市政運営の指針として、変化の激しい時代であっても変わることのない恒久的な都市づくりの基本理念・基本目標及び望ましい都市の姿を示す。

～以下抜粋～

【基本理念】 人間尊重・市民生活優先

【基本目標】 人とまち いきいきと幸せに輝く都市

【望ましい都市の姿】

- ① 自然を身近に感じるまち・千葉市
- ② 健やかに安心して暮らせるまち・千葉市
- ③ 安全で快適なまち・千葉市
- ④ 豊かな創造力をはぐくむまち・千葉市
- ⑤ 共に築いていくまち・千葉市

1 策定の趣旨

私たちは市民、民間団体、企業、行政が手を携えて、新しい世紀を生きそして暮らす市民一人ひとりが、生きがいと幸せを感じ、愛着と誇りの持てる「郷土千葉市」を築き、次の世代に引き継いでいくため、ここに「千葉市基本構想」を定め、21世紀を展望した市政運営の指針とします。

『千葉市新基本計画』 計画期間:平成24(2012)～33(2021)年度

基本構想で定める基本目標等を実現するため、まちづくりの方向性や実現すべきまちの個性などを示す基本方針や今後の施策展開の方向性などを示すものです。

～以下抜粋～

「第5章 分野別計画」 方向性3 豊かな心が育ち、新たな価値が生まれるまちへ

3-3 文化を守り、はぐくむ

3-3-2 文化的財産の保全と活用

「文化財・史跡等の整備や博物館の充実などにより、市民が身近に本市の歴史・文化に触れ、愛着を深めることができる環境づくりを推進します。」

『千葉市新基本計画 第2次 実施計画』 計画期間:平成27(2015)～29(2017)年度

市政運営の中長期的な指針である「千葉市新基本計画」に示すまちづくりの方向に進んでいくため、平成27(2015)年度からの3年間に重点的、優先的に取り組む事業を具体的に示すものです。

～以下抜粋～

【施策の展開】

- ・本市は加曽利貝塚をはじめ、多くの文化財を有するが、高度経済成長期以降に転入してきた市民が多く、地域の歴史や伝統に対する認識や理解が育ちにくい環境にある。
- ・適切な保護により後世に引き継ぐとともに、地域住民や関係機関と連携し、観光的な視点を取り入れた活用や、ふるさと意識の醸成を図る。
- ・加曽利貝塚の、特別史跡指定を目指し、関係機関との協議・調整を行うとともに、史跡内の環境整備などを進める。

【計画事業】

- ・加曽利貝塚の特別史跡指定に向けた取り組み。

加曽利貝塚総括報告書刊行

加曽利貝塚保存活用計画策定

加曽利貝塚広報活動

歴史文化基本構想の策定

『第5次 生涯学習推進計画』 計画期間:平成28(2016)～33(2021)年度

市民が自ら学んだ成果を生かし、活力あるコミュニティを形成できる環境づくりを推進するための取り組みアクションプランとして具体的に示すものです。

～以下抜粋～

2 多様な学習機会の確保

2-1 郷土への愛着を深める学習機会の提供

【施策の指針】

郷土に対する理解と愛着を深めるため、地域の歴史や文化資源を生かした学習機会を提供します。

【アクションプラン】

No.1 加曽利貝塚の国特別史跡指定

No.3 郷土の理解を深める講座・事業の拡充

巻末表1-1:市の施策と史跡整備

年 度		史跡整備に関わる事項
昭和54	1979	千葉市史跡整備基本構想策定委員会設置
		主要遺跡の踏査、整備の現状と課題精査、基本的な観点の検討
		『千葉市緑のマスタープラン』 緑地と一体となって遺されている文化財等を結ぶ「都川歴史と緑の道」整備。
昭和56	1981	『千葉市史跡整備基本構想』(昭和57年3月) 多分野の専門家による現地踏査や検討により、基本構想を作成。
		『千葉市新総合基本計画』
昭和57	1982	基本計画策定委員会設置
		『史跡整備の方法―縄文貝塚の整備―』(昭和58年3月) 市内の縄文遺跡の保護・活用に関する理念、重要性・意義等をまとめた。
昭和59	1984	『千葉市緑と水辺の都市宣言』(昭和59年10月) 「千葉市は、東京湾の水辺と下総台地に広がる豊かな緑に囲まれ、縄文の昔から、恵まれた自然環境のなかで、健やかで活力に満ちた生活が営まれてきた。」
		『千葉市史跡整備基本計画』(昭和60年3月) 『史跡整備基本構想』に基づき整備の具体的な方法と全体計画を示す。
		『史跡加曽利貝塚整備基本設計』 植生調査、花粉分析、物理探査の成果と整備の実施設計。
昭和60	1985	『千葉市第4次5か年計画』(昭和61年3月) 政令指定都市へ向かう総合計画の目玉として、加曽利貝塚と周辺整備を位置付け。 加曽利貝塚周辺地区に「縄文の森と水辺」をテーマとした公園整備を示唆。
		『縄文の森と水辺基本構想 調査報告書』公園緑地部 周辺の環境、交通・都市計画、加曽利貝塚の特性等の調査結果と評価、整備の基本構想、縄文の森・博物館等施設の事業計画、事業費概算額を示す。
		昭和61
平成2	1990	博物館新館整備案を検討
		『千葉市第5次5か年計画』(平成3年3月) 『千葉市加曽利貝塚遺跡周辺地域の自然環境調査報告書』
平成3	1991	加曽利貝塚博物館新館構想研究会 発掘・整備に関わってきた有志による研究会
		平成5
平成5	1993	「縄文の森」内部検討会報告(平成5年10月縄文の森構想検討会) 縄文の森構想に参画するための基礎資料をまとめたもの。
		『(仮称)縄文の森基本計画報告書』(平成6年3月)
平成9	1997	『千葉市緑と水辺の基本計画』(平成9年12月) 「縄文の森と水辺」構想の継続を明記するも将来の課題とする。
		平成14
平成14	2002	千葉市観光コンベンション振興計画(平成15年3月) 「縄文の森と水辺」をテーマに加曽利貝塚周辺の保全・活用を図る。 博物館のリニューアルを目指し、世界遺産登録への取り組みを検討する。
		平成21
平成21	2009	千葉市特別緑地保全地区の指定(平成22年2月) 加曽利貝塚を含む坂月川一帯22haを「縄文の森特別緑地保全地区」に指定。
		平成23
平成23	2011	『緑と水辺の基本計画』(平成23年7月) ～縄文より引き継がれてきた住みやすさ日本一のまちを次代に～
		平成24
平成24	2012	『千葉市新基本計画』 文化財や史跡の整備、博物館の充実により市民が愛着を深められる環境づくりの推進。
		平成26
平成26	2014	『千葉市新基本計画 第2次 実施計画』計画期間:平成27～29年度 加曽利貝塚の特別史跡指定に向けた取り組みとして、総括報告書、保存活用計画の策定。
		平成27
平成27	2015	『第5次 生涯学習推進計画』計画期間:平成28～33年度 郷土愛醸成のためのアクションプランの一番目として特別史跡へ向けた取り組みを提示。

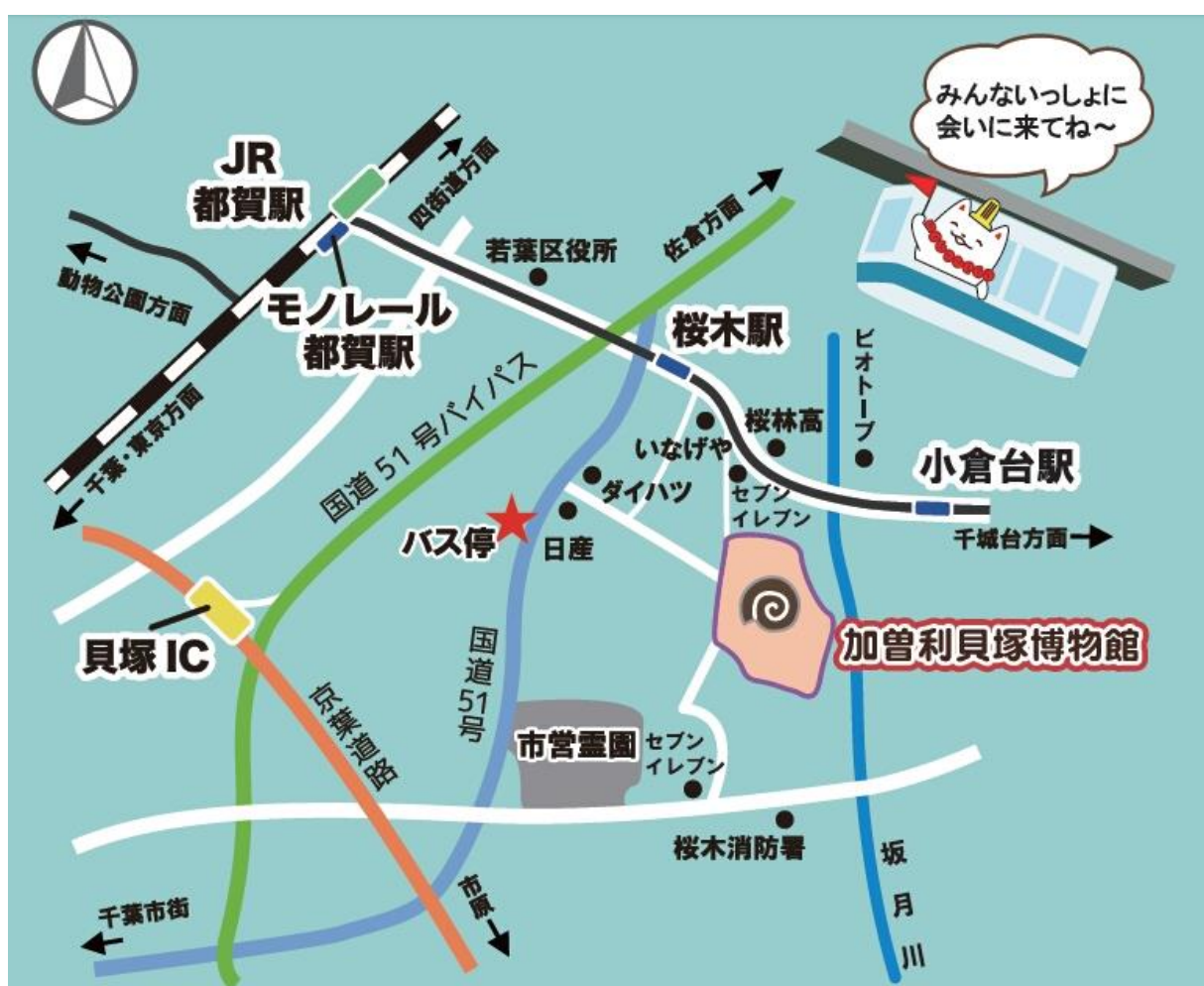
巻末資料3 社会的環境

1 交通

史跡加曾利貝塚は、桜木2丁目および桜木8丁目に所在し、坂月川を挟んで小倉町、小倉台に隣接しています。千葉市中心市街地の東方に位置し、JR 千葉駅から東へ約4km、千葉都市モノレール桜木駅および小倉台駅からはそれぞれ約1kmの距離にあります。

道路網についてみると、京葉道路貝塚インターチェンジから東へ約2km、遠方から車で来られる利用者にも距離的にはアクセスしやすい位置にあります。ただし、幹線道路から史跡までの道幅が狭く、案内板も少ないなどの課題が山積しています。

路線バスルートは千葉駅より京成バス御成台車庫行き(市営霊園経由)があり、最寄りの桜木町バス停からは徒歩で15分程度の距離にあります。



巻末図 3-1: 加曾利貝塚へのアクセスマップ
(千葉デザイナー学院の学生によるデザイン)

巻末資料3 社会的環境

2 人口

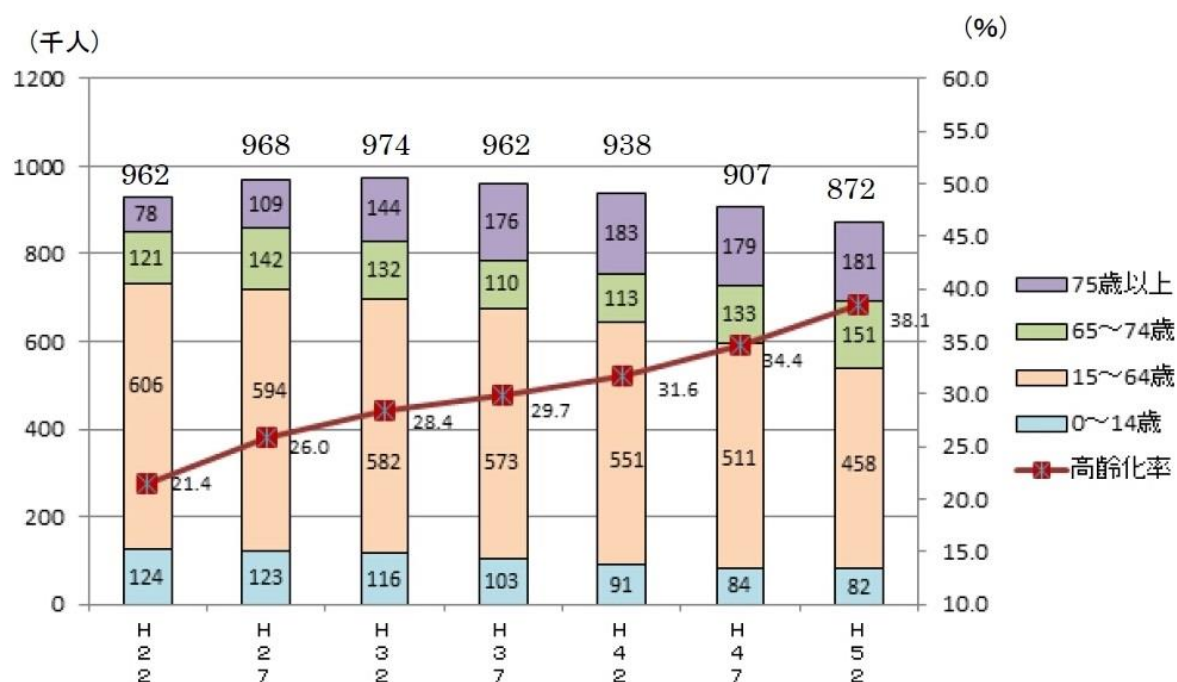
平成28(2016)年4月1日現在の千葉市の推計人口は 972,289人、世帯数は 420,286世帯、加曽利貝塚がある若葉区では人口151,112人、63,440世帯を数えます。どちらも近年の人口推移としては微増傾向が続いていますが、これから数年以内に自然減が社会増を上回り、人口推移としては減少傾向に向かうことが予想されています。(巻末図 3-2 参照)

巻末表3-1:平成28(2016)年4月1日現在推計人口

区 分	人 口			世 帯 数	面積 (km ²)	人口密度 (1ha/人)
	総 数	男	女			
千 葉 市 総 数	973,289	483,270	490,019	420,286	271.76	35.8
中 央 区	205,671	102,329	103,342	96,189	44.69	46.0
花 見 川 区	179,135	89,422	89,713	77,806	34.19	52.4
稲 毛 区	161,312	80,388	80,924	71,435	21.22	76.0
若 葉 区	151,112	76,194	74,918	63,440	84.21	17.9
緑 区	127,523	62,474	65,049	47,298	66.25	19.2
美 浜 区	148,536	72,463	76,073	64,118	21.20	70.1

* 人口・世帯数は、平成27年国勢調査結果速報を用い、住民基本台帳の異動を加減したもの。

* 面積は、平成27年10月1日現在の国土地理院公表面積。1ha=10,000m²=100×100m。



巻末図 3-2:千葉市の人口予測と高齢化率

(千葉市 第2次実施計画より)

3 商工業

臨海部に位置する中央区から美浜区東側は、京葉工業地域の一角をなし、製鉄、食品製造、運輸業、自動車整備、自動車小売業、美浜区西側の幕張新都心地区は国内外の情報通信や、流通関連企業、内陸部の花見川区から稲毛区を中心とした北部地域は、一般機械・金属加工型工業が集積しています。

江戸時代から陸海の交通の要衝として栄え、明治初期には県庁が設置され、県内の政治・経済・文化の中心地として飛躍的に発展してきましたが、空襲により焼け野原となってしまいました。戦後に行われた千葉駅周辺を中心とした都市整備により、今日に至るまで商業の拠点となっています。また、1990年代以降、幕張新都心や蘇我地区などにも商業施設が建設され、商業圏の分散化が進んでいます。

4 農業

首都圏近郊の農業地として、若葉区、緑区、花見川区北部などには広大な農地が広がっています。栽培されている農産物は多様ですが、長距離の輸送に適さない、ホウレンソウや小松菜などの葉物野菜が多くなっています。イチゴやブルーベリーなどの栽培も盛んで、収穫体験ができる観光農園も数多くあります。

酪農では飼養頭数、産出額で県内上位を維持し、全国的に見ても高水準となっています。

市内に漁港はありませんが、県内の産地から多くの海産物が流通し、加工食品が製造されています。

5 周辺の地域資源

旧石器時代から今日に至る遺跡が市域全域に1300カ所以上あり、東京湾に面した海辺や内陸部の豊かな緑地などの自然環境とともに大切な地域資源となっています。

千葉市には平成29(2017)年1月31日現在、国指定文化財7件、国登録文化財5件、県指定文化財29件、市指定文化財50件、市地域文化財10件の計101件の文化財が認定されています。(付図参照)

国指定文化財7件の内、5件は加曽利貝塚をはじめとする月ノ木貝塚、荒屋敷貝塚、犢橋貝塚、花輪貝塚の大型貝塚が史跡として指定されています。(巻末表 3-2 参照)

博物館や美術館などの展示機能を有する施設も数多くあり、考古、歴史、郷土、自然科学、動植物、美術、建造物など幅の広い選択が可能となっています。中でも千葉市立美術館は、房総ゆかりの絵画、浮世絵、現代美術などを収集する美術館で、特色ある企画展などで、全国的にも知名度の高い施設となっています。

幕張新都心地区には、国際的なイベントや会議などが開催されるコンベンション施設の幕張メッセやプロ野球千葉ロッテマリーンズの本拠地 ZOZO マリンスタジアムが、蘇我スポーツ公園には、サッカーJリーグのジェフユナイテッド市原・千葉の本拠地フクダ電子アリーナがあります。

年間来場者数70万人超の千葉市動物公園、四季を通じてさまざまな自然の風景が楽しめ、「日本のさくら名所百選」にも選ばれた泉自然公園などの大規模公園、総延長4.3kmの人工海岸からなる海浜公園などがあります。

巻末表3-2:千葉市内史跡一覧

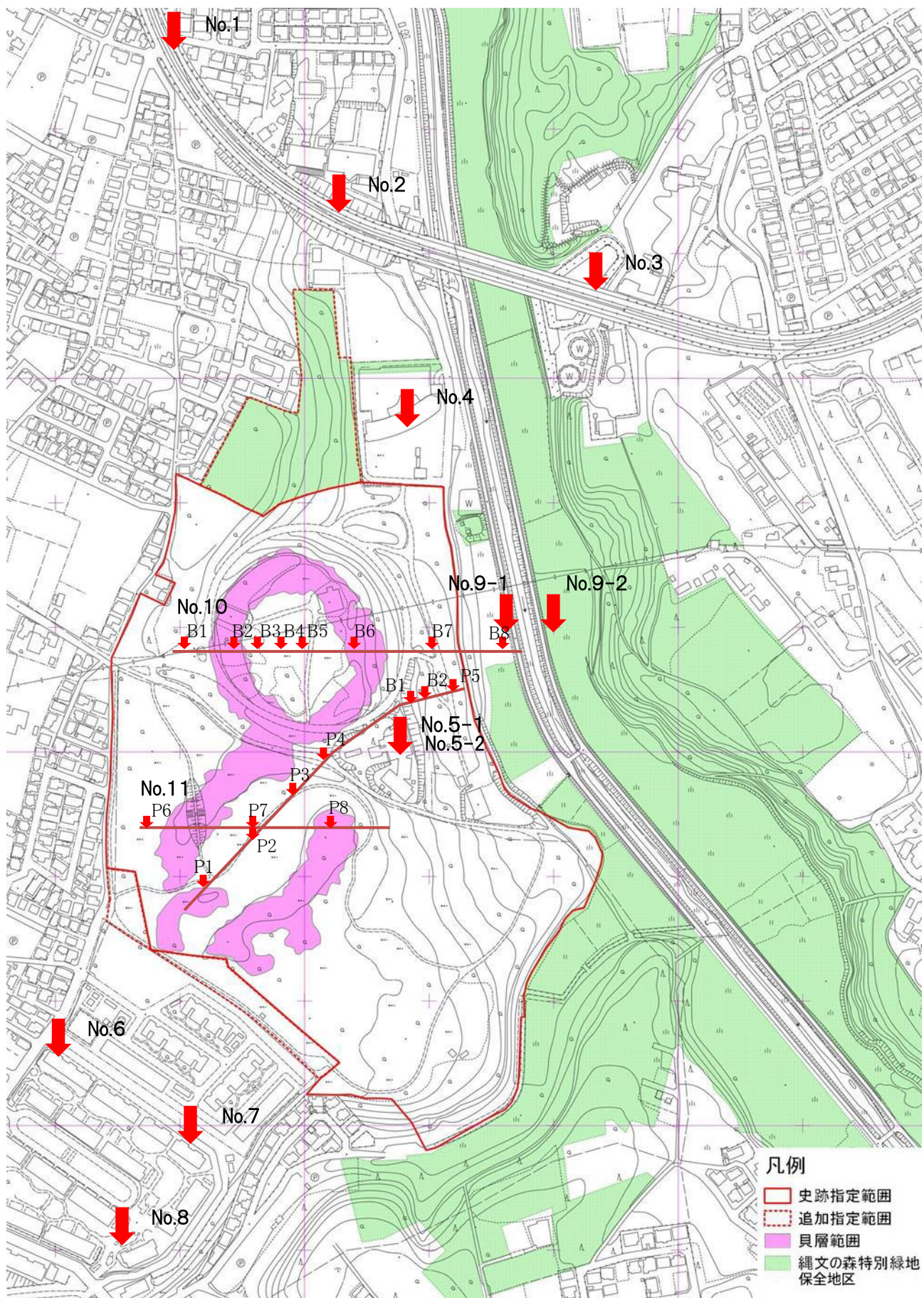
名 称	備 考
所在地	
指定年月日	
加曽利貝塚	直径約140mで環状の北貝塚と長軸約190mで馬蹄形の南貝塚が接続した8字状の貝塚。生活の痕跡は早期から晩期まで見られるが、貝塚は中期から後期の約2,000年の間に残されたもの。縄文時代のムラの様子を思わせる復原住居群や、実物の貝層を観察できる貝層断面の展示などがある。
若葉区桜木町	
昭和46(1971)年3月22日	
月ノ木貝塚	都川の支流に面した標高約25mの台地上にある、東西150m南北200mの馬蹄形貝塚。貝層の厚さは1.2～1.5mだが、中央の凹地に向かって次第に薄くなり、中央凹地部分には貝や遺物は散布していない。形成時期は中期から後期で、隣接する丘の上にへたの台貝塚がある。
中央区仁戸名町	
昭和53(1978)3月16日	
荒屋敷貝塚	中期から後期にかけてできた貝塚で、北側と南側は都川に注ぐ小さな川があり、その小川にはさまれた標高約31mの広大な台地上に位置する。直径約160mの環状に近い馬蹄形貝塚。ハマグリ、アサリ、キサゴ等の東京湾の干潟でみられた貝類が主体となっている。下部に高速道路のトンネルが走る。
若葉区貝塚町	
昭和54(1979)年3月13日	
犢橋貝塚	標高約26mの台地上に位置する後期から晩期の馬蹄形貝塚。貝層を構成する貝はハマグリを主体にアサリ、オキシジミ、キサゴなどの鹹水（かんすい）産貝類で、獣骨はシカが最も多く、サル、タヌキなども出土し、イヌの埋葬骨も発見されている。さつきが丘団地内の緑地公園として保存されている。
花見川区さつきが丘	
昭和61(1986)年10月23日	
花輪貝塚	直径約120mの環状で、中央がややくぼみ、縁辺部が高くなっている状況が実際に確認できるほど遺存状態は良好。後期前半（堀之内式期）に極めて短期間に貝塚が形成されている。イボキサゴが圧倒的に多く、次いでハマグリ、アサリ、シオフキがみられる。
若葉区加曽利町	
平成18(2006)年7月28日	

巻末資料4 博物館来館者の推移

巻末表4-1：博物館来館者の推移

年		開館 日数	個人			団体			大人	小人	観覧料免除	総数	1日 平均
			大人	小人	個人計	大人	小人	団体計					
昭和41年	1966	91	2,151	933	3,084	539	1,617	2,156	2,690	2,550	2,321	7,561	83
昭和42年	1967	293	7,110	2,678	9,788	2,921	8,987	11,908	10,031	11,665	2,357	24,053	82
昭和43年	1968	287	5,455	2,381	7,836	2,393	9,370	11,763	7,848	11,751	1,506	21,105	74
昭和44年	1969	207	4,759	2,096	6,855	1,656	11,614	13,270	6,415	13,710	1,610	21,735	105
昭和45年	1970	297	7,083	3,453	10,536	2,017	16,226	18,243	9,100	19,679	2,368	31,147	105
昭和46年	1971	298	7,865	4,520	12,385	2,665	18,993	21,658	10,530	23,513	3,536	37,579	126
昭和47年	1972	298	7,905	4,309	12,214	5,737	20,957	26,694	13,642	25,266	3,231	42,139	141
昭和48年	1973	169	5,021	3,550	8,571	2,998	13,443	16,441	8,019	16,993	1,212	26,224	155
昭和49年	1974	294	9,900	7,782	17,682	5,139	23,724	28,863	15,039	31,506	2,252	48,797	166
昭和50年	1975	295	9,360	7,210	16,570	5,323	25,788	31,111	14,683	32,998	4,020	51,701	175
昭和51年	1976	252	7,746	6,995	14,741	4,855	29,096	33,951	12,601	36,091	2,732	51,424	204
昭和52年	1977	293	8,647	7,695	16,342	4,726	28,600	33,326	13,373	36,295	3,479	53,147	181
昭和53年	1978	294	8,496	7,786	16,282	5,676	36,970	42,646	14,172	44,756	3,247	62,175	211
昭和54年	1979	294	10,047	9,046	19,093	4,606	34,603	39,209	14,653	43,649	3,381	61,683	210
昭和55年	1980	258	10,246	8,279	18,525	5,324	41,931	47,255	15,570	50,210	2,932	68,712	266
昭和56年	1981	296	10,794	8,559	19,353	3,947	42,866	46,813	14,741	51,425	5,199	71,365	241
昭和57年	1982	295	11,086	9,038	20,124	3,532	46,337	49,869	14,618	55,375	3,232	73,225	248
昭和58年	1983	296	9,445	6,845	16,290	3,414	44,345	47,759	12,859	51,190	3,098	67,147	227
昭和59年	1984	270	9,633	6,626	16,259	2,103	43,727	45,830	11,736	50,353	2,059	64,148	238
昭和60年	1985	287	8,428	5,556	13,984	2,192	35,740	37,932	10,620	41,296	2,181	54,097	188
昭和61年	1986	294	9,173	5,605	14,778	2,896	33,026	35,922	12,069	38,631	1,284	51,984	177
昭和62年	1987	297	8,788	5,237	14,025	1,973	27,073	29,046	10,761	32,310	1,563	44,634	150
昭和63年	1988	293	9,660	5,126	14,786	1,190	22,315	23,505	10,850	27,441	451	38,742	132
平成元年	1989	293	7,800	4,018	11,818	1,043	19,568	20,611	8,843	23,586	493	32,922	112
平成2年	1990	293	8,397	3,702	12,099	1,370	19,197	20,567	9,767	22,899	1,904	34,570	118
平成3年	1991	293	7,402	3,395	10,797	895	16,656	17,551	8,297	20,051	3,250	31,598	108
平成4年	1992	296	8,239	3,834	12,073	1,129	11,546	12,675	9,368	15,380	5,527	30,275	102
平成5年	1993	293	8,835	3,560	12,395	736	12,008	12,744	9,571	15,568	3,400	28,539	97
平成6年	1994	293	9,010	3,861	12,871	703	10,993	11,696	9,713	14,854	2,961	27,528	94
平成7年	1995	293	8,382	3,266	11,648	1,136	11,820	12,956	9,518	15,086	3,191	27,795	95
平成8年	1996	291	8,067	3,209	11,276	374	8,512	8,886	8,441	11,721	2,914	23,076	79
平成9年	1997	291	7,111	2,631	9,742	654	8,338	8,992	7,765	10,969	3,055	21,789	75
平成10年	1998	294	6,527	2,230	8,757	564	5,898	6,462	7,091	8,128	2,592	17,811	61
平成11年	1999	296	6,979	3,346	10,325	478	6,026	6,504	7,457	9,372	2,538	19,367	65
平成12年	2000	294	5,429	1,990	7,419	438	6,735	7,173	5,867	8,725	2,700	17,292	59
平成13年	2001	294	5,393	1,861	7,254	427	7,103	7,530	5,820	8,964	3,236	18,020	61
平成14年	2002	293	5,709	2,026	7,735	235	5,579	5,814	5,944	7,605	2,622	16,171	55
平成15年	2003	295	5,239	1,858	7,097	440	6,120	6,560	5,679	7,978	2,715	16,372	55
平成16年	2004	295	5,077	1,985	7,062	493	5,933	6,426	5,570	7,918	2,817	16,305	55
平成17年	2005	295	4,903	1,662	6,565	466	6,060	6,526	5,369	7,722	2,226	15,317	52
平成18年	2006	294	4,869	1,713	6,582	320	7,276	7,596	5,189	8,989	2,923	17,101	58
平成19年	2007	294	5,020	1,757	6,777	253	6,440	6,693	5,273	8,197	4,197	17,667	60
平成20年	2008	166	2,572	1,001	3,573	113	5,822	5,935	2,685	6,823	2,305	11,813	71
平成21年	2009	294	4,565	1,771	6,336	275	5,942	6,217	4,840	7,713	3,363	15,916	54
平成22年	2010	280	4,480	1,652	6,132	213	5,778	5,991	4,693	7,430	3,222	15,345	55
平成23年	2011	295	3,095	1,180	4,275	654	1,359	2,013	3,749	2,539	9,556	15,844	54
平成24年	2012	298	4,983	1,881	6,864	390	6,813	7,203	5,373	8,694	3,771	17,838	60
平成25年	2013	297	5,258	1,723	6,981	773	6,128	6,901	6,031	7,851	2,518	16,400	55
平成26年	2014	107	2,626	1,269	3,895	101	4,435	4,536	2,727	5,704	1,544	9,975	93
平成27年	2015	305	8,297	4,265	12,562	2,168	7,847	10,015	10,465	12,112	3,653	26,230	86
累計		13,870	353,062	197,951	551,013	94,663	843,280	937,943	447,725	1,041,231	144,444	1,633,400	118

巻末資料5 ボーリングデータ



巻末図 5-1:ボーリング位置図

No.1 桜木駅

地 質 柱 状 図

整理番号 06196

調査地 千葉市若葉区桜木町

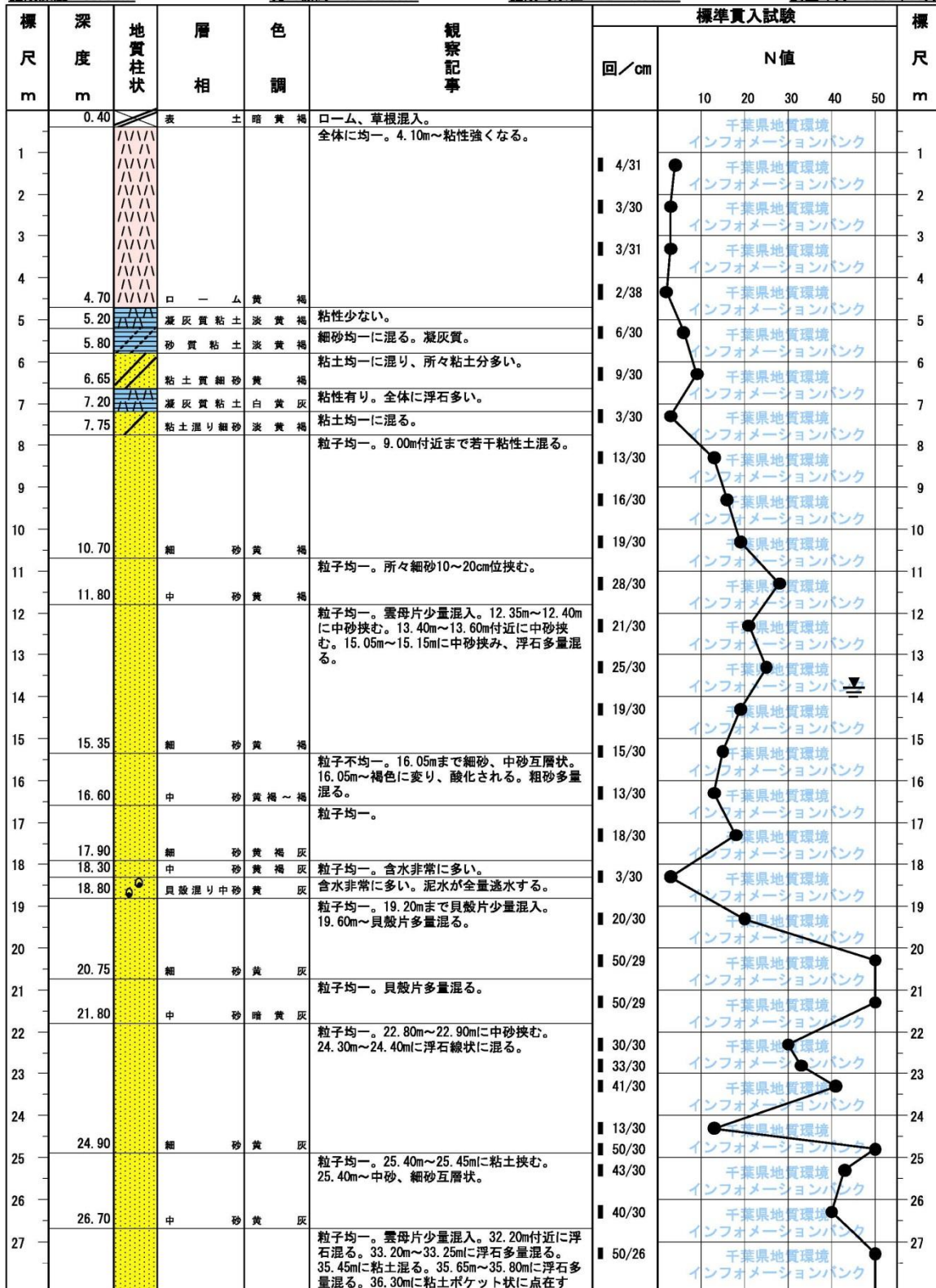
メッシュコード 53403153

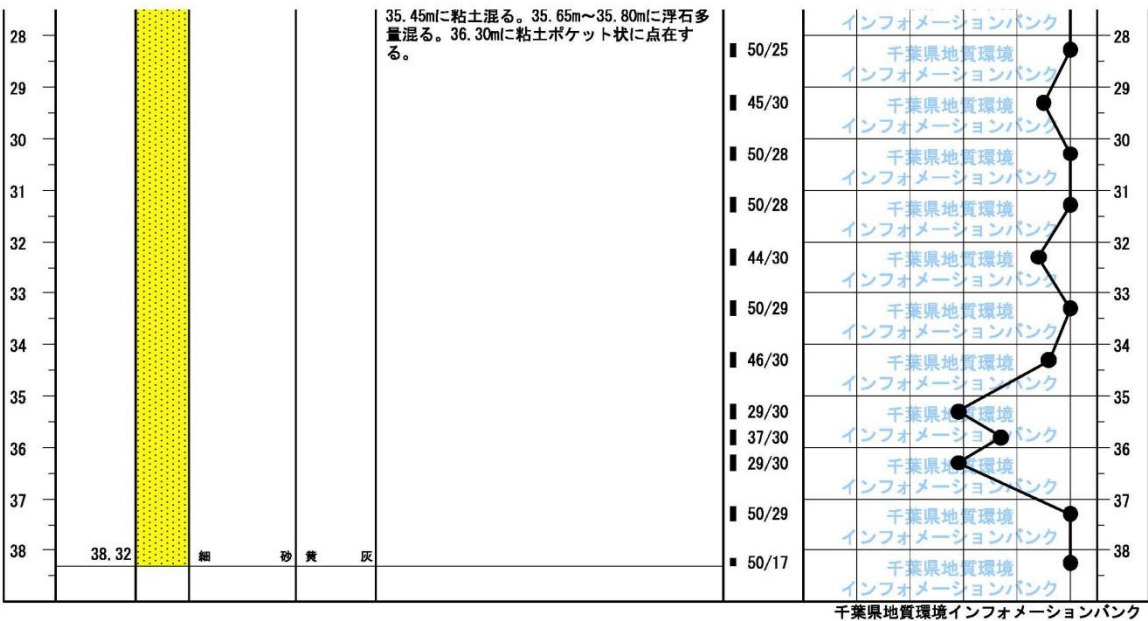
掘削深度 38.32m

孔口標高 TP 28.96m

掘削時水位 GL -13.78m

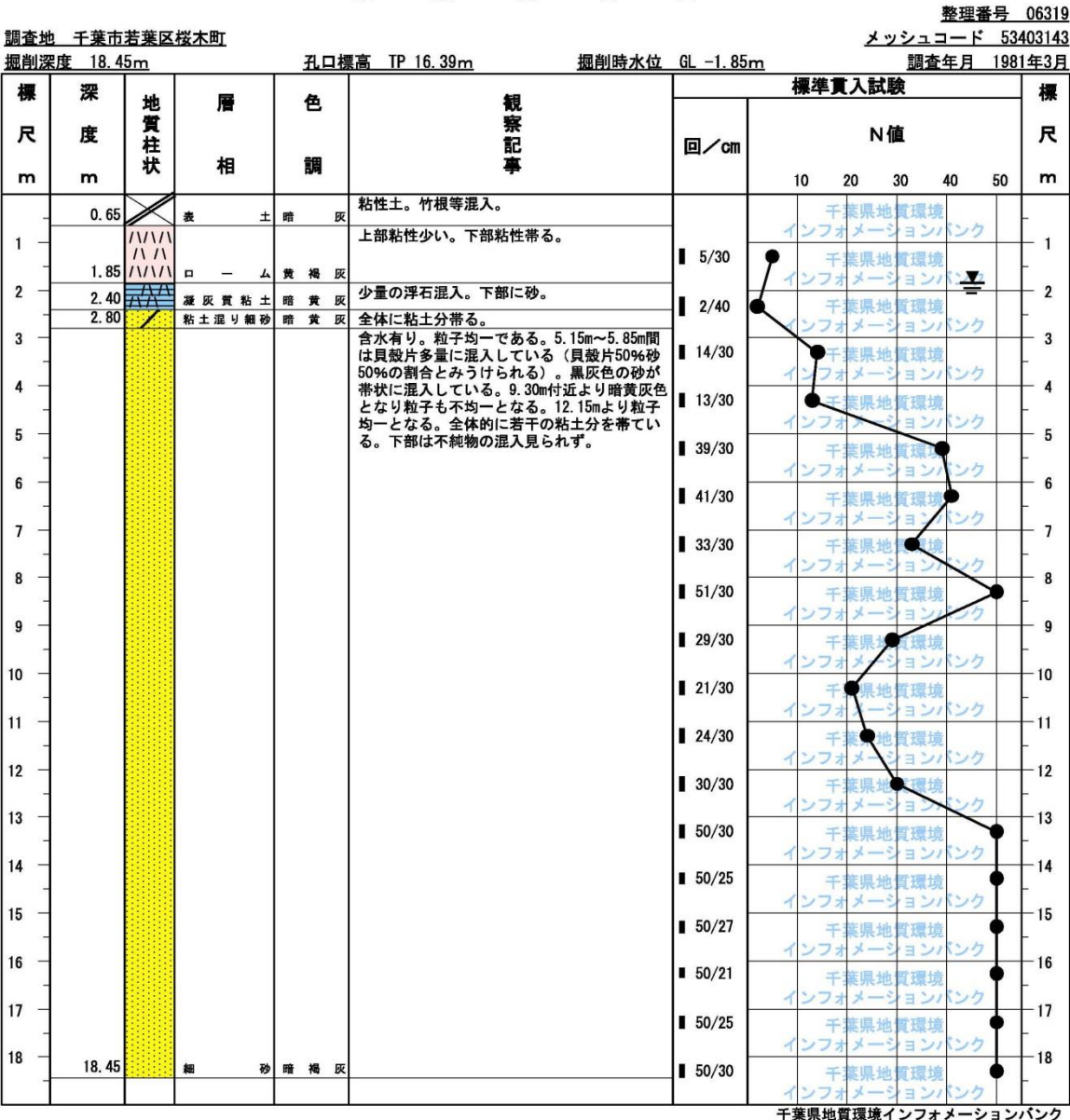
調査年月 1981年11月





No.2 桜林高校前

地質柱状図



No.3 小倉浄化センター跡前

地 質 柱 状 図

調査地 千葉市若葉区小倉町

掘削深度 15.39m

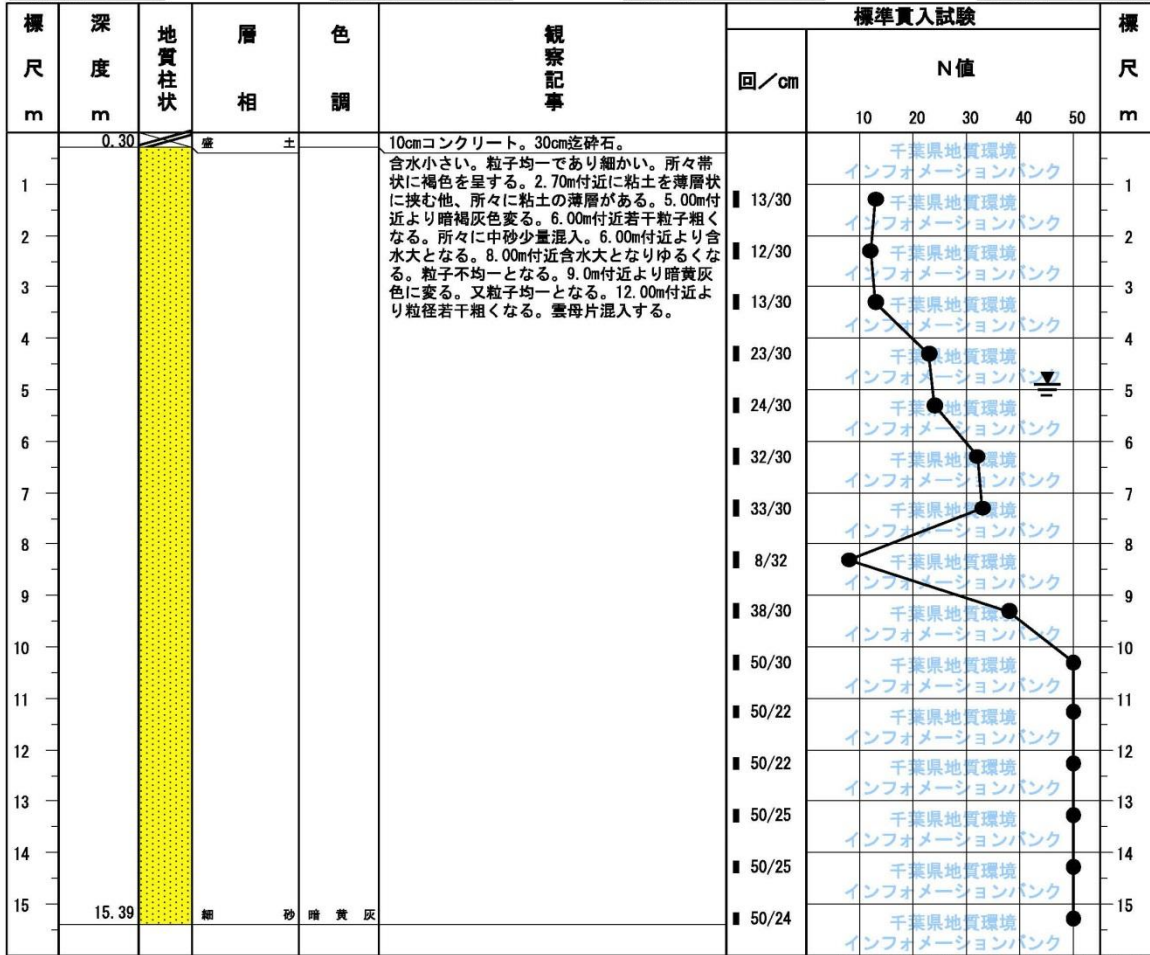
孔口標高 TP 19.78m

掘削時水位 GL -4.90m

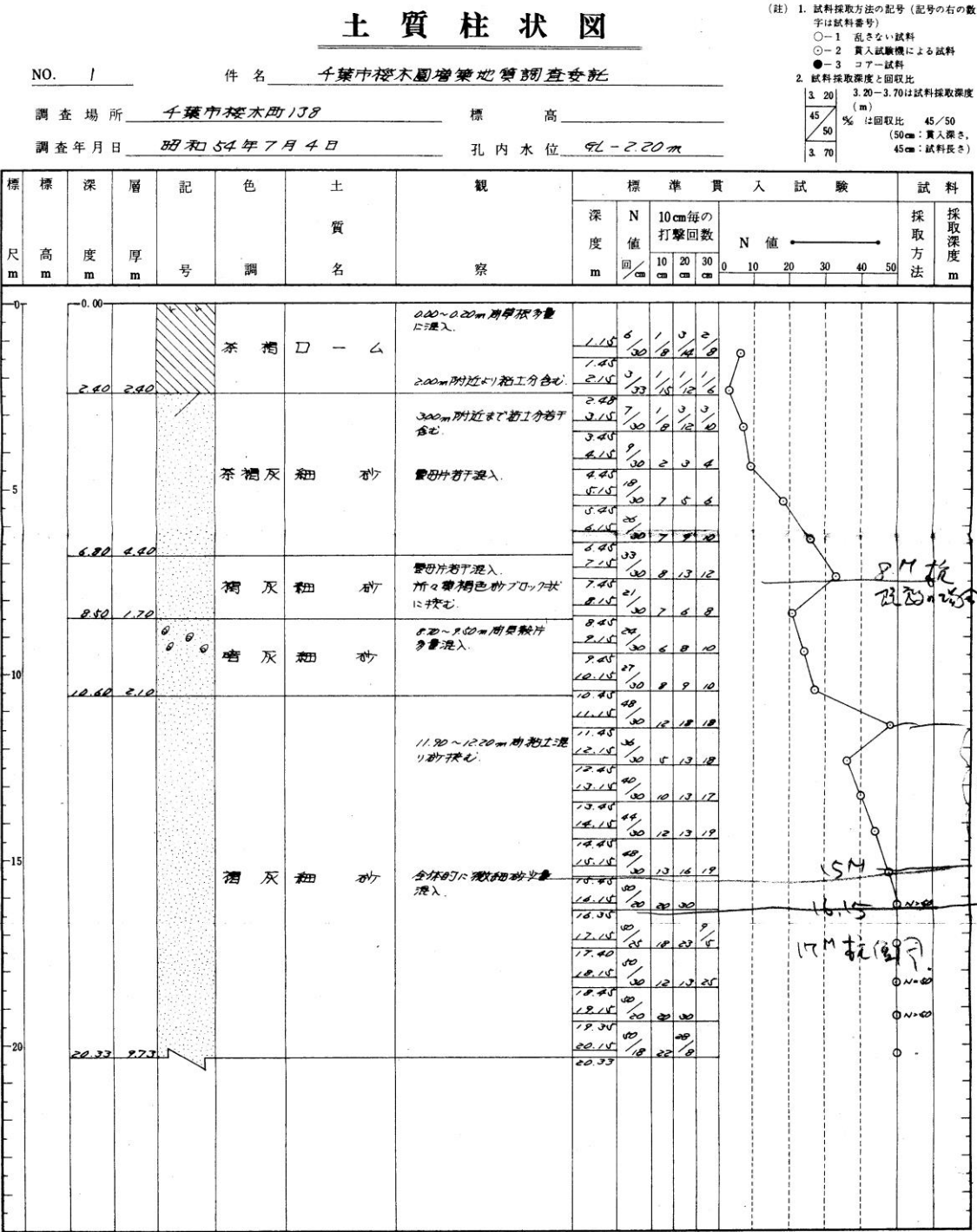
整理番号 06315

メッシュコード 53403143

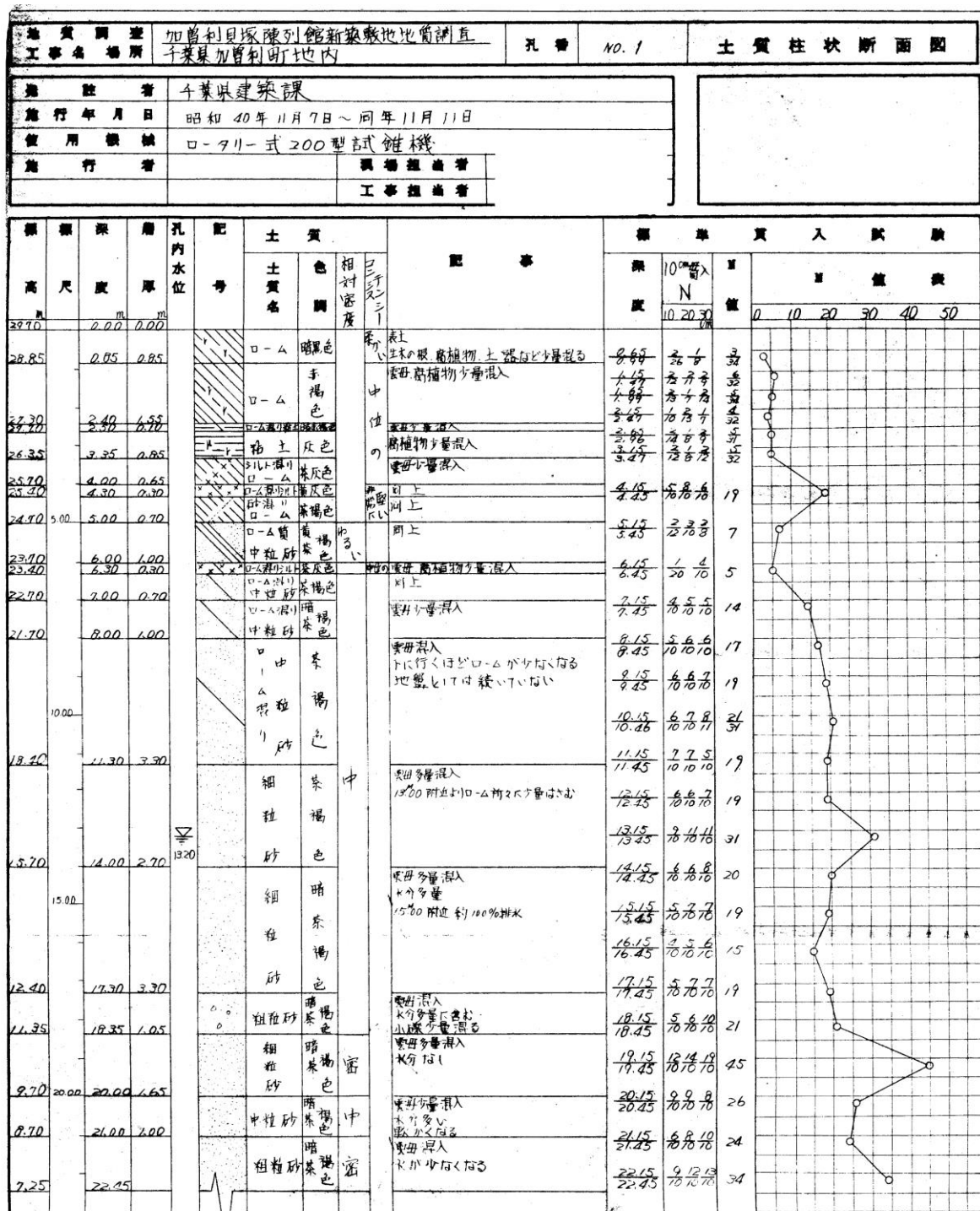
調査年月 1981年3月



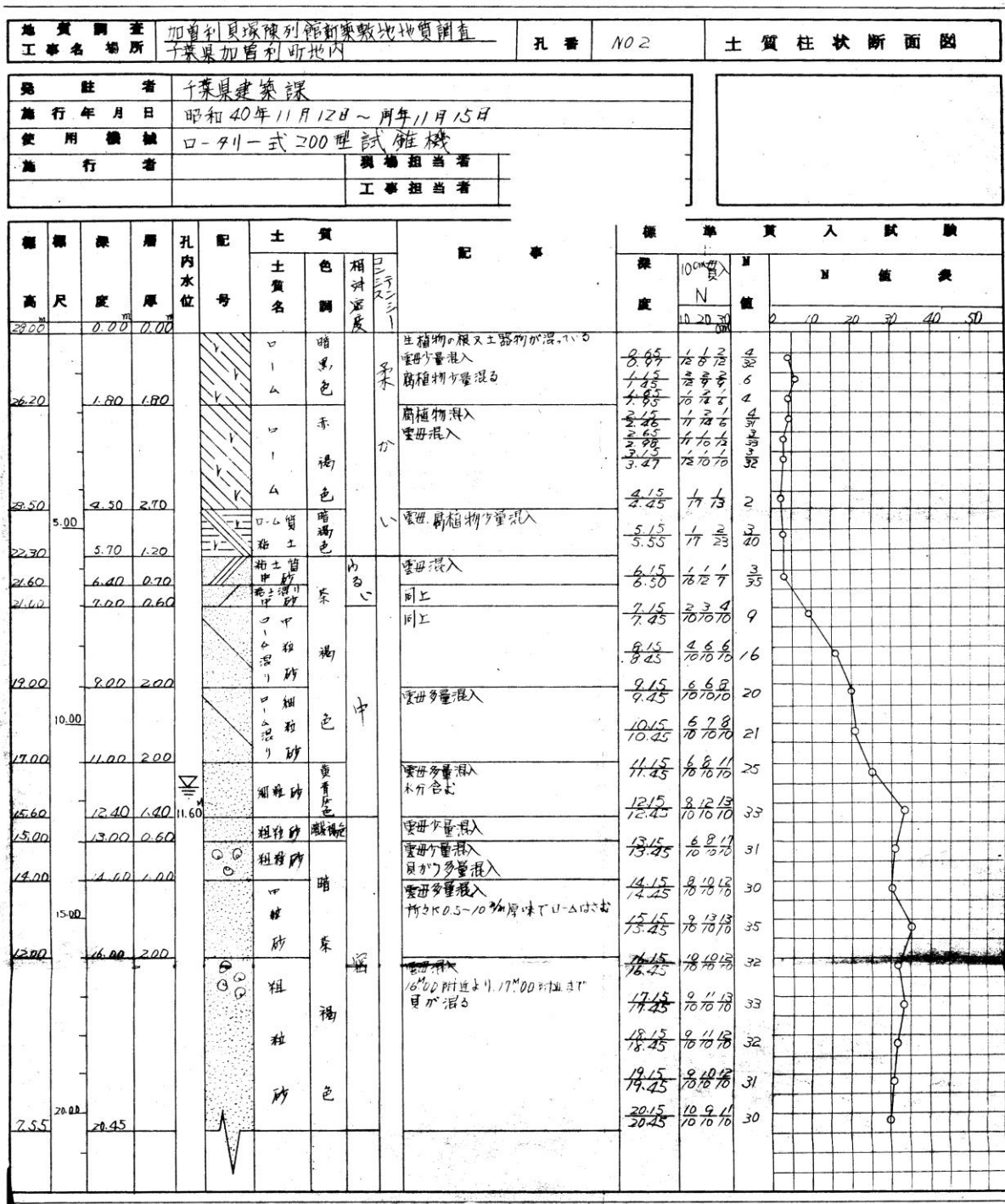
No.4 桜木園



No.5-1 加曾利貝塚博物館



No.5-2 加曽利貝塚博物館



No.6 県営桜木第2団地

地 質 柱 状 図

整理番号 23509

調査地 千葉市若葉区桜木町

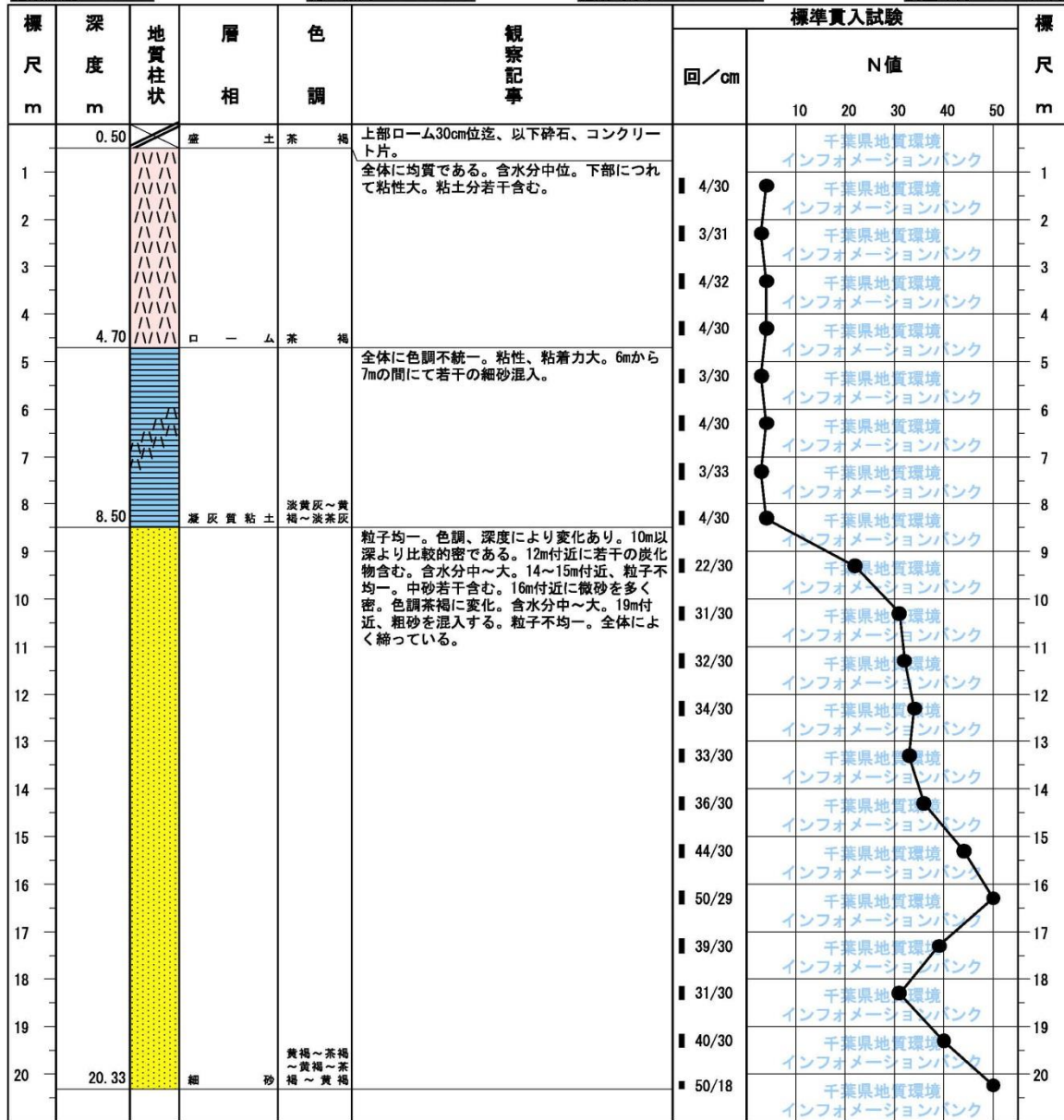
メッシュコード 53403143

掘削深度 20.33m

孔口標高 TP 30.29m

掘削時水位 GL m

調査年月 1987年1月



千葉県地質環境インフォメーションバンク

No.7 県営桜木第2団地

地 質 柱 状 図

整理番号 22429

調査地 千葉市若葉区桜木町

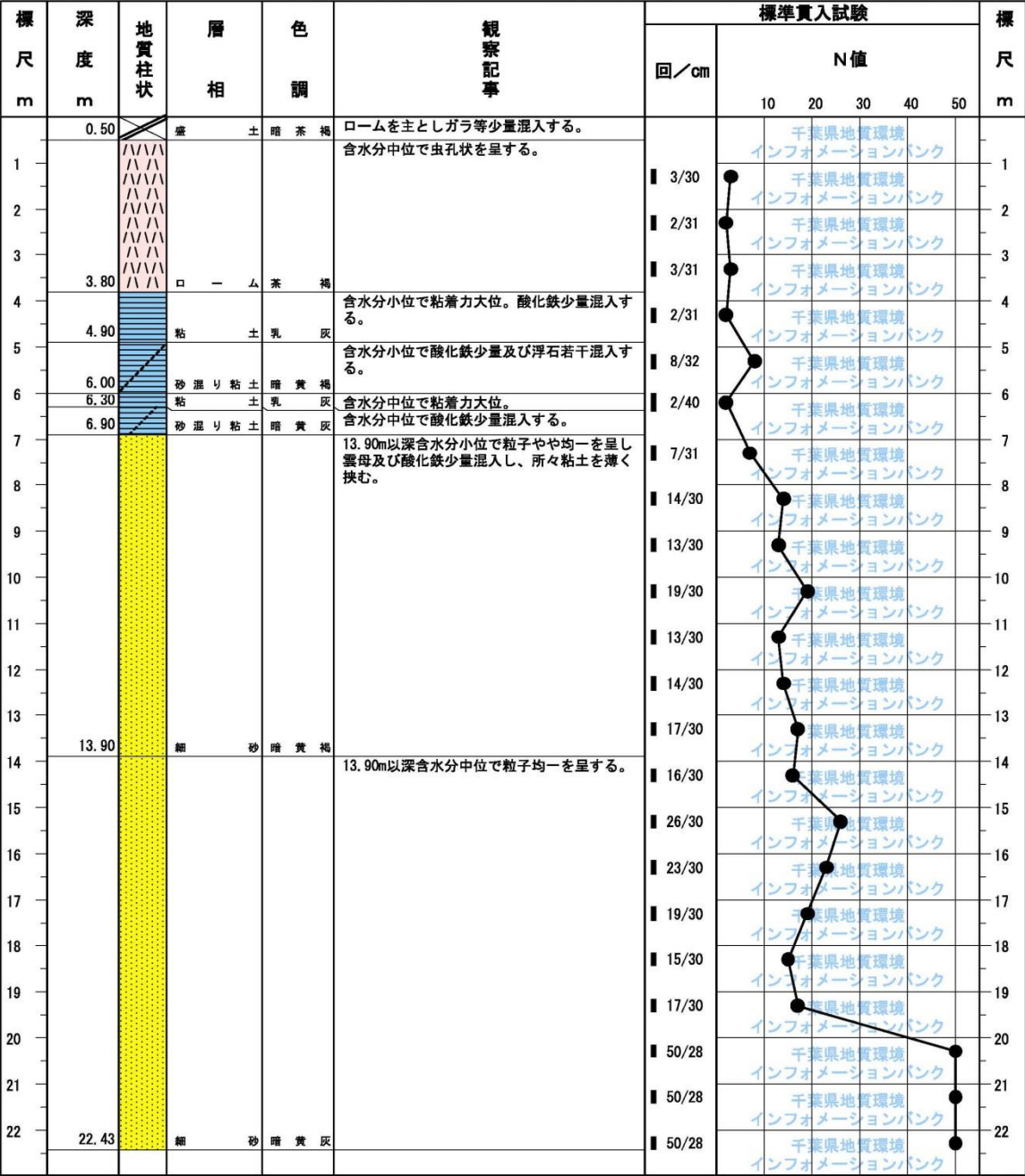
メッシュコード 53403143

掘削深度 22.43m

孔口標高 TP 20.05m

掘削時水位 GL m

調査年月 1987年3月



千葉県地質環境インフォメーションバンク

No.8 県営桜木第2団地

地 質 柱 状 図

整理番号 22416

調査地 千葉市若葉区桜木町

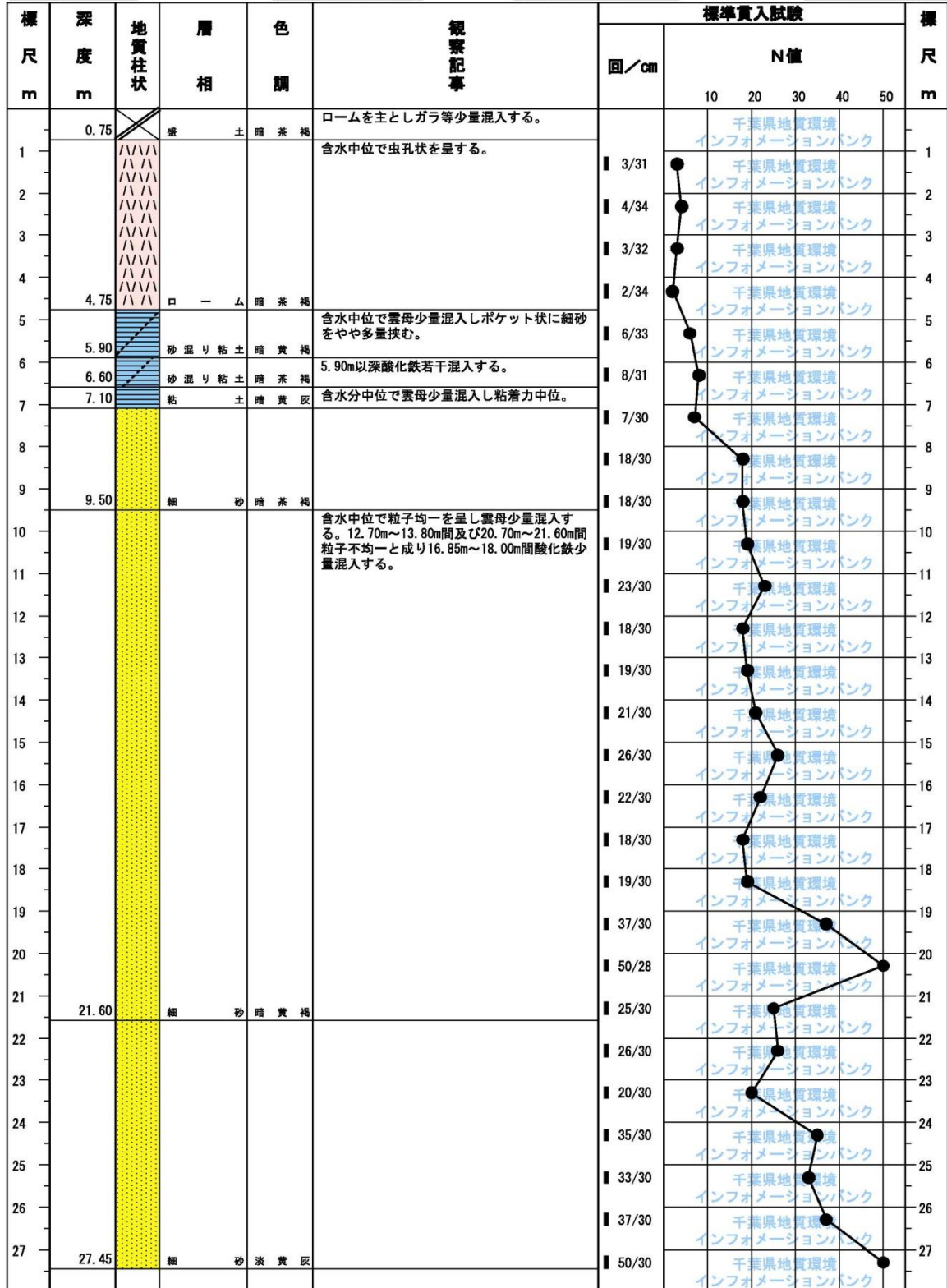
メッシュコード 53403143

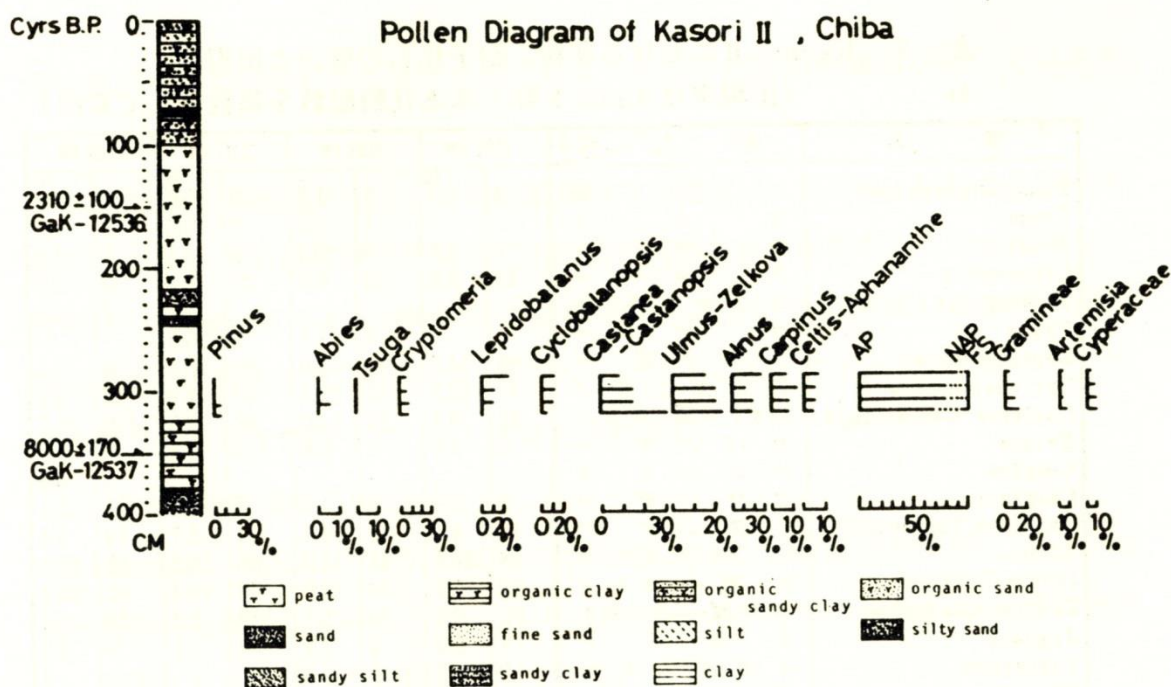
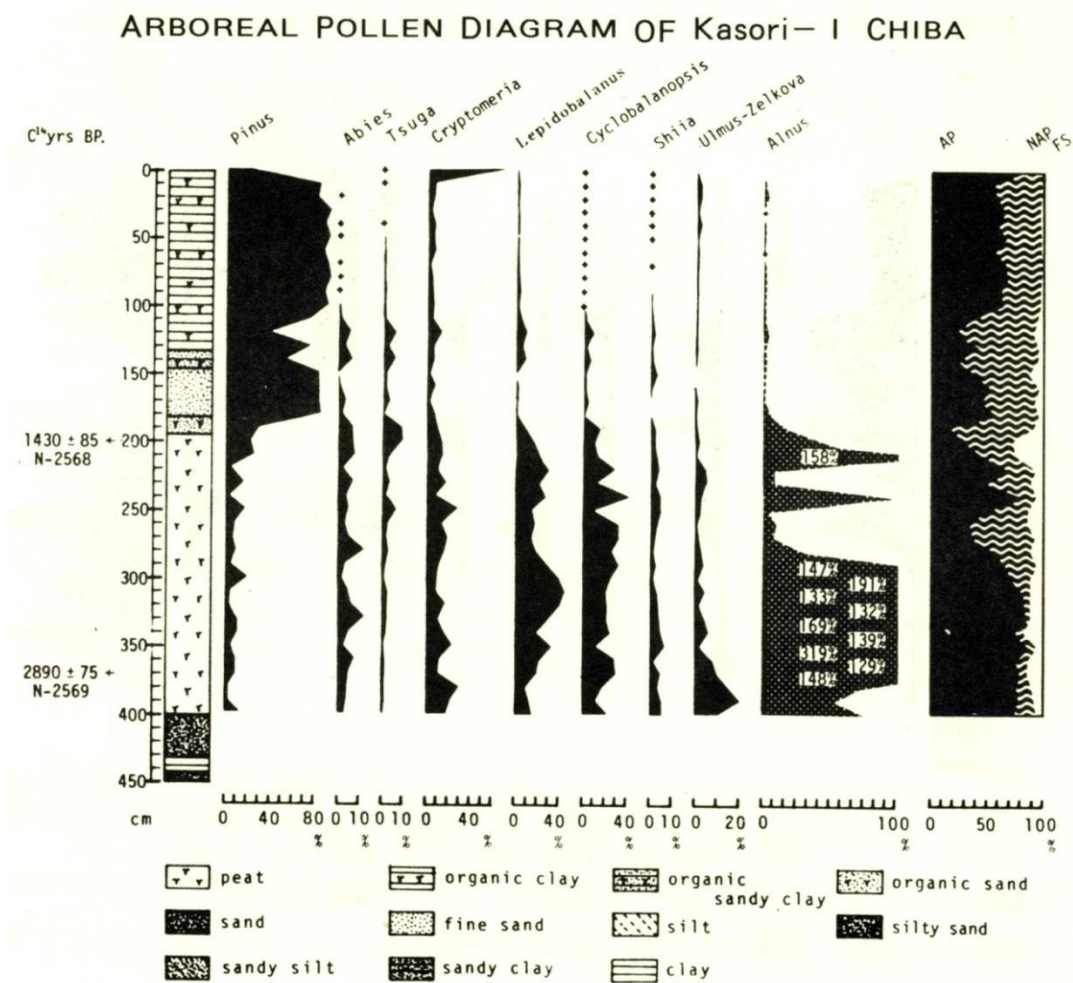
掘削深度 27.45m

孔口標高 TP 30.14m

掘削時水位 GL m

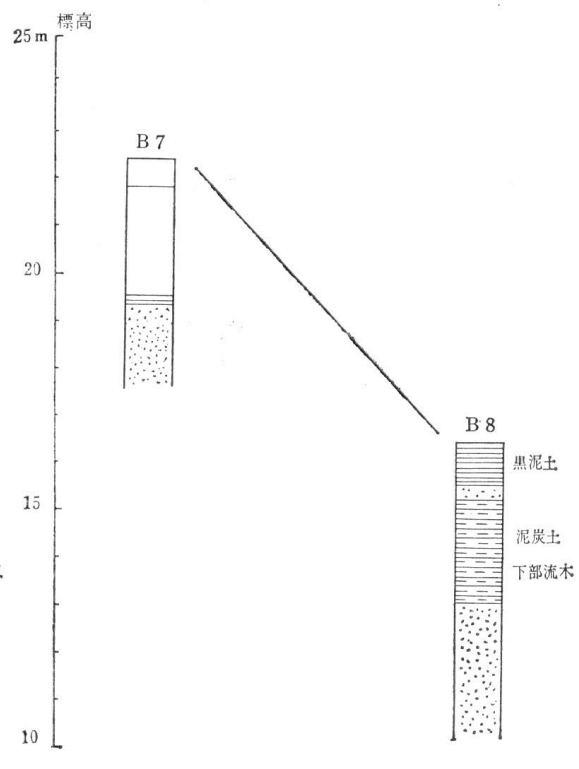
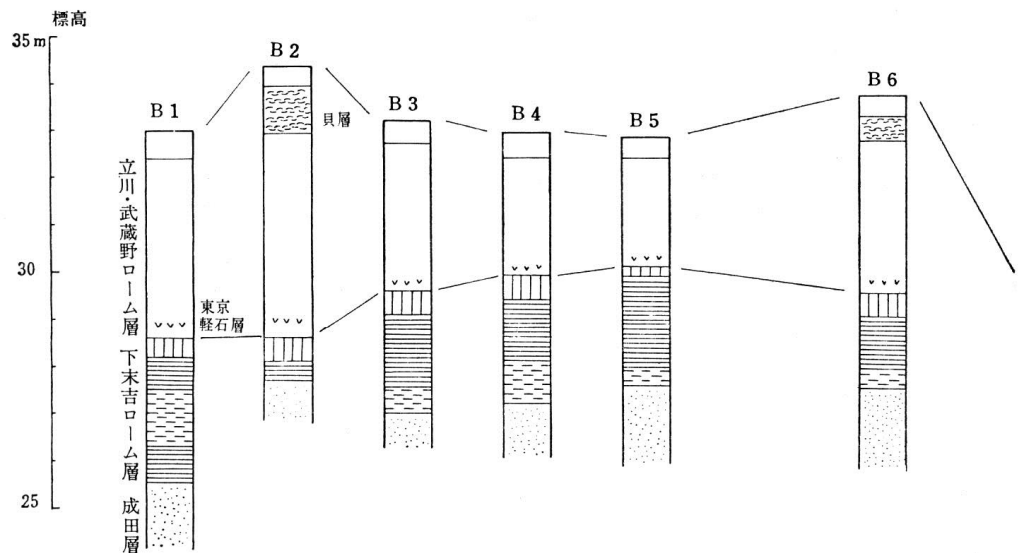
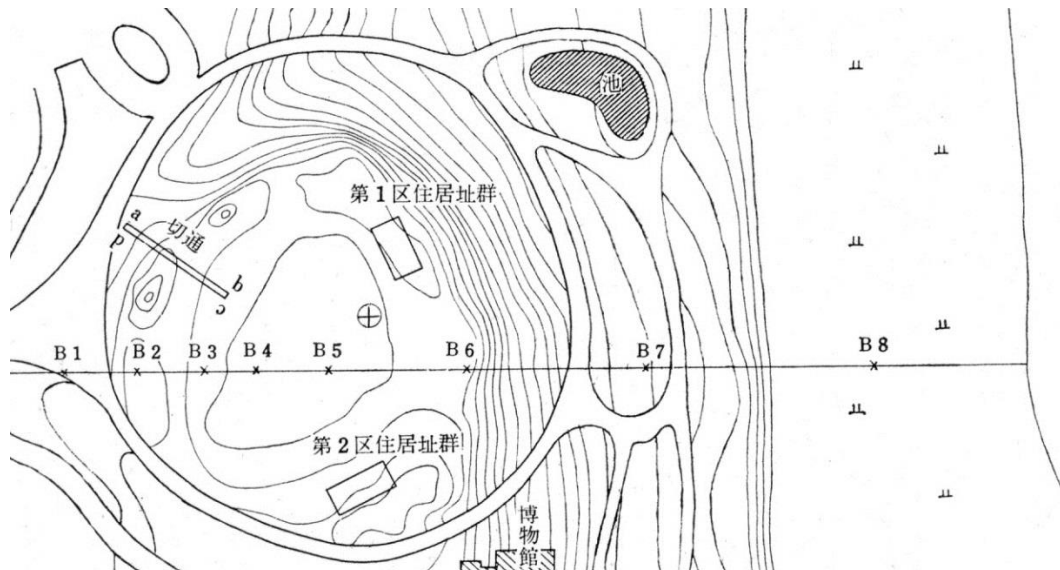
調査年月 1987年3月





No.10 加曾利貝塚(南貝塚)

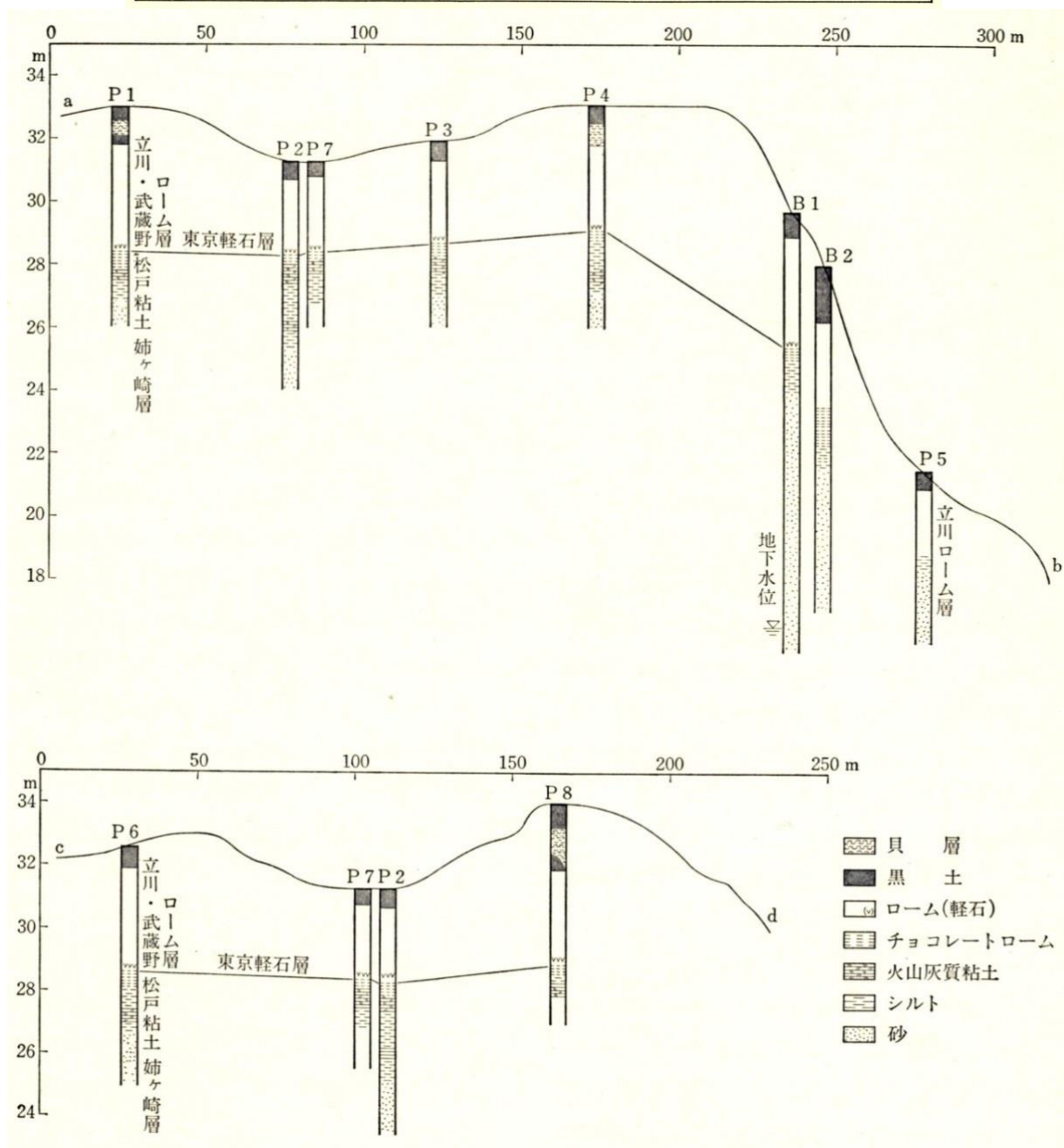
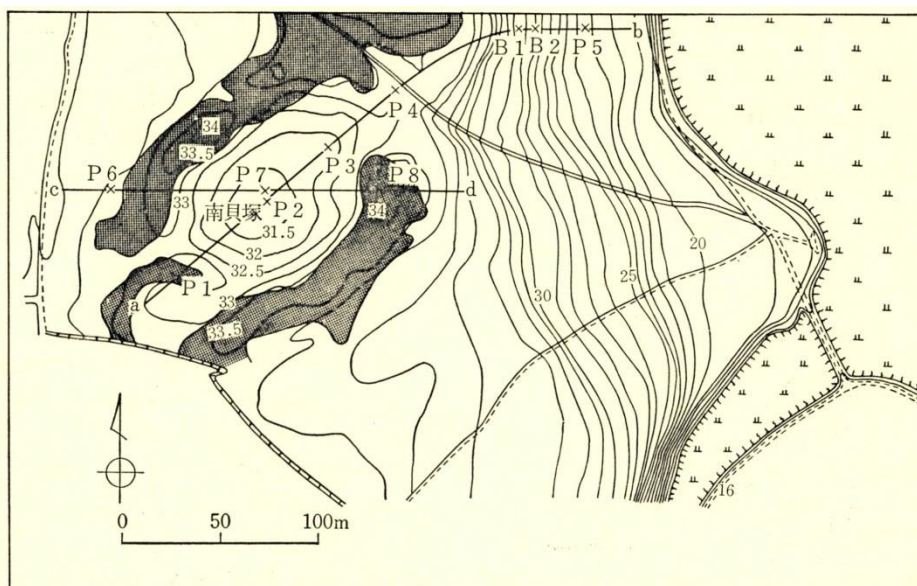
杉原荘介 (『加曾利貝塚』中央公論美術出版 1966 年)



- 表土
- ローム (火山灰)
- チョコレート色ローム・褐色粘土
- 粘土
- 粘土質砂
- 泥炭土
- 砂

No.11 加曽利貝塚(南貝塚)

貝塚爽平・杉原重夫 (「加曽利貝塚の地理」『加曽利貝塚Ⅱ』1968 年) * 使用機材: ハンドオーガ



巻末資料6 自然環境文献調査

史跡加曽利貝塚を中心に、縄文の森特別緑地保全地区、坂月川流域とその周辺のエリアに絞って、動植物調査に関する文献を収集しました。収集できた文献は30件で、対象範囲ごとにA～Cに分類し、それぞれ番号を振りました。

- | | | |
|---|---|-----|
| A | : 加曽利貝塚公園および加曽利南貝塚に関する調査報告等 | 8件 |
| B | : 坂月川に関する調査報告等 | 7件 |
| C | : 千葉県あるいは千葉県を対象とした調査報告等で、対象地域における記録が明記されていて抽出が可能な文献 | 15件 |

巻末表6-1: 自然環境関連文献一覧

文献 No.	文 献 名
A 01	「史跡加曽利南貝塚整備予備調査中間報告書」(千葉市教育委員会, 1986)
A 02	「史跡加曽利南貝塚整備基本設計」(千葉市教育委員会文化課, 1986)
A 03	「千葉市加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集」(千葉市加曽利貝塚博物館, 1988)
A 04	「千葉市加曽利貝塚遺跡周辺地域の自然環境調査報告書(1990年度)」(千葉市公園緑地部, 1991)
A 05	「千葉市加曽利貝塚公園で見られるいろいろな野花」(工藤信雄, 2006)
A 06	「千葉市レッドリスト記載 加曽利貝塚と周辺の植物」(加曽利自然観察会)
A 07	「加曽利貝塚公園内に生育する植物」(加曽利自然観察会)
A 08	「加曽利貝塚公園 植物リスト(草本)」(加曽利自然観察会, 2015)
B 01	「坂月川ビオトープ整備予定地における生物調査報告書」(千葉市環境局, 2005)
B 02	「坂月川ビオトープ(仮称)生物観察ノート」(千葉市環境局, 2005)
B 03	「2008年度坂月川ビオトープ自然環境調査報告書」(千葉市環境保全推進課・坂月川愛好会, 2009)
B 04	「2009年度坂月川ビオトープ自然環境調査報告書」(千葉市環境保全推進課・坂月川愛好会, 2010)
B 05	「2010年度坂月川ビオトープ自然環境調査報告書」(千葉市環境保全推進課・坂月川愛好会, 2011)
B 06	「2013年度坂月川ビオトープ自然環境調査報告書」(千葉市環境保全課・坂月川愛好会, 2014)
B 07	「2014年度坂月川ビオトープ自然環境調査報告書」(千葉市環境保全課・坂月川愛好会, 2015)
C 01	「千葉市の植生」(千葉市, 1974)
C 02	「千葉市史跡整備基本計画」(千葉市史跡整備基本計画策定委員会ほか, 1985)
C 03	「泉自然公園収蔵植物標本目録」(泉自然公園管理事務所, 1991)
C 04	「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告Ⅰ」(千葉自然環境調査会編, 1993)
C 05	「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告Ⅱ」(千葉自然環境調査会編, 1994)
C 06	「千葉県野生鳥類生息分布図作成調査報告書」(千葉県環境部自然保護課, 1994)
C 07	「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告Ⅲ」(千葉自然環境調査会編, 1995)
C 08	「千葉市野生動植物の生息状況及び生態系調査報告」(千葉自然環境調査会編, 1996)
C 09	「千葉市の保護上重要な野生生物(千葉市レッドリスト)」(千葉市, 2004)
C 10	「河川の水生生物(魚類・底生動物)調査報告書」(千葉市環境局, 2005)
C 11	「河川・海域の水生生物(魚類・底生動物)調査報告書」(千葉市環境局, 2009)
C 12	「河川水生生物(植物)調査報告書」(千葉市環境局, 2010)
C 13	「千葉市緑と水辺のまちづくりプラン」(千葉市, 2012)
C 14	「千葉市水環境保全計画の推進について」(千葉市, 2015)
C 15	「房総の昆虫 No. 28, 33, 35, 37, 39, 40, 41, 42, 43, 45, 46, 48, 50, 53, 55」 (千葉県昆虫談話会, 2002, 2004, 2005, 2006, 2007, 2008, 2009, 2010, 2011, 2012, 2014, 2015)

* 千葉県昆虫談話会発行の「房総の昆虫」掲載記事については、対象地域における短報を抽出した。

卷末資料7 文献一覧

調査概要・調査報告書・遺跡紹介・遺物紹介		
青沼道文	1975	『千葉市加曽利町古山遺跡確認調査報告ー市街路桜木線⇔小倉町線ー』
青沼道文	2000	「加曽利貝塚」『千葉県の歴史 資料編考古1(旧石器・縄文時代)』
麻生優	1952	「加曽利貝塚発見の玉器」上代文化23
荒井魏	1983	「加曽利貝塚」『日本の遺跡発掘物語2縄文時代』社会思想社
安藤一郎	1970	「マンモス団地で住んだ加曽利貝塚人 数千年も続いた日本一の遺跡」『かそり十話 第1部(前近代)』
池上啓介	1937	「第一回史前学会貝塚見学遠足会記」史前学雑誌09-1
石田収蔵	1907	「貝塚に到る」,東京人類学会第三回遠足会(下総国千葉郡都村大字加曽利貝塚調査)人類学雑誌23-260
石田収蔵	1915	「下総国千葉郡加曽利貝塚発掘」人類学雑誌30-11
石堂徹生	1994	「東京湾岸に築かれた世界的な巨大貝塚 加曽利貝塚」『朝日ワンテームマガジン32 日本の遺跡50 原始・古代を旅するガイド』
井上喜久治	1894	「下総地方遺跡談」人類学会雑誌9-95
今西龍	1907	「到着から散会まで」,東京人類学会第三回遠足会(下総国千葉郡都村大字加曽利貝塚調査)人類学雑誌23-260
上田英吉	1887	「下総国千葉郡介壇記」人類学雑誌02-19
上羽貞幸	1915	「東京人類学会遠足会」人類学雑誌30-11
上羽貞幸	1923	「加曽利貝塚の近状」考古学雑誌13-11
江坂輝彌	1973	「加曽利貝塚の人々」『古代史発掘2 縄文土器と貝塚』講談社
江崎武	1966	「資料紹介 千葉市加曽利発見の有舌尖頭器」金鈴9
江見水蔭	1909	「加曽利貝塚大発掘」『地中の秘密』博文館
大野雲外	1907	「加曽利貝塚の概況」,東京人類学会第三回遠足会(下総国千葉郡都村大字加曽利貝塚調査)人類学雑誌23-260
大宮守誠	1937	「千葉県加曽利古山貝塚に就いて」考古学雑誌27-6
大山柏他	1937	「千葉県千葉郡都村加曽利貝塚発掘調査報告」史前学雑誌09-1
小川栄一	1940	『千葉縣之貝塚』
忍澤成規	2000	「千葉市若葉区加曽利貝塚」(「骨角貝製品収集資料」所収)『千葉県の歴史 資料編考古1(旧石器・縄文時代)』
小田桐健児	1915	「下総加曽利貝塚踏査」人類学雑誌30-11
加曽利貝塚調査団	1965	『加曽利貝塚 SHELL-MOUNDS OF KASORI』中央公論出版
加曽利貝塚調査団	1973	『昭和47年度加曽利貝塚南平坦部遺跡限界確認予備調査概報』
加曽利貝塚調査団	1976	『加曽利南貝塚』中央公論美術出版
加曽利貝塚調査団	1977	『加曽利北貝塚』中央公論美術出版
加曽利南貝塚調査団	1972	『加曽利南貝塚傾斜面遺跡限界確認調査』
京都大学文学部	1960	「千葉市加曽利町加曽利貝塚」『京都大学文学部博物館考古学資料目録 第1部』
甲野勇	1941	「独鈷石資料- 下総国千葉郡都村加曽利貝塚発見」古代文化12-5
甲野勇	1953	「加曽利貝塚の発掘」『縄文土器のはなし』世界社
國學院大學	1983	『國學院大學考古学資料館要覧1983 故野口義麿氏寄贈資料』
小林達雄	1986	「縄文文化を伝える巨大貝塚-加曽利貝塚」『図説発掘が語る日本史 第2巻 関東・甲信越編』
後藤和民	1973	「加曽利遺跡」日本考古学年報-1971年度-
後藤和民	1974	「遺跡案内 加曽利貝塚」『日本考古学の視点 上』日本書籍
後藤和民	1978	「加曽利貝塚」『京葉の貝塚ー市川・松戸・千葉の主な貝塚ー』
後藤和民	1984	「加曽利貝塚 歴史の窓」千葉史学4
後藤和民	1985	「千葉県加曽利貝塚<馬蹄形貝塚と貝塚群>」『探訪縄文の遺跡 東日本編』有斐閣
後藤和民	1990	「加曽利南貝塚の発掘ー整備のための事前調査ー」加曽利博友の会会誌 貝塚6
後藤和民・庄司克・後藤美智子	1981	「昭和45・46年度加曽利貝塚東傾斜面発掘調査概報」貝塚博物館紀要06
後藤和民・庄司克	1982	「昭和47年度加曽利貝塚東傾斜面発掘調査概報」貝塚博物館紀要07
後藤和民・庄司克・飯塚博和	1982	「昭和48年度加曽利貝塚東傾斜面発掘調査概報」貝塚博物館紀要08
斎藤忠	1982	「加曽利貝塚の発掘」『日本の発掘』東京大学出版会
酒詰仲男	1948	『貝塚の話』貝塚の話』
佐々木邦	1937	「人と貝」史前学雑誌09-1
佐藤順一	2001	「史跡加曽利貝塚の調査ー平成元年度ー」『平成年度千葉市遺跡発表会要旨』
椎名仙卓・麻生優	1950	「加曽利貝塚発掘記」学会月報1, 國學院大學考古学会
史前学会	1936	『加曽利貝塚の概要』
清水潤三	1964	「発掘調査総予算五百万円 くるしい財政事情」つどい17
庄司克	1972	「加曽利南貝塚の遺跡限界確認調査の意義について」museumちば創刊号
庄司克	1987	「加曽利貝塚の調査経過」『加曽利貝塚博物館20年の歩みー野外博物館をめざしてー』
庄司克	1988	「加曽利貝塚発掘の成果」『加曽利貝塚保存25周年記念講演会「加曽利貝塚と日本の考古学」』
須賀川市立博物館編	1986	「首藤保之助(阿武隈考古館)考古資料 採集記録 第3号」『須賀川市立博物館調査研究報告書 第6集』
杉原荘介	1964	「じょう文中期から晩期の遺跡 貴重な文化遺産」つどい17
杉原荘介	1966	『加曽利貝塚』中央公論社
杉山寿栄男	1927	『日本原始工芸』工芸美術研究会
杉山寿栄男	1931	「図版第22 臺附土器」(解説p.10)『日本考古図録大成 第14輯』日東書院
芹沢長介	1962	「千葉県千葉市加曽利貝塚」日本考古学年報11
滝口宏	1964	「発掘の意義とその目的」つどい17
滝口宏他	1977	『加曽利貝塚IV』中央公論美術出版

- 武田宗久 1962 『加曽利貝塚発掘報告書』(ガリ版刷り6pの概要報告)
- 武田宗久他 1975 『加曽利貝塚Ⅰ』中央公論美術出版
- 田中英世 1987 「千葉市加曽利貝塚西平坦部採集の遺物について」貝塚博物館紀要14
- 田中英世 1996 「加曽利西貝塚の調査ー昭和53年・平成元年の立会い調査資料からー」貝塚博物館紀要23
- 田中英世 2013a 「加曽利貝塚[再整理調査]」『埋蔵文化財調査センター年報26ー平成24年度ー』
- 田中英世 2013b 「加曽利貝塚」『平成24年度 千葉市遺跡発表会要旨』
- 田中英世 2014 「加曽利貝塚」『平成25年度 千葉市遺跡発表会要旨』
- 千葉県文化財センター 1986 『加曽利貝塚ー県営桜木第二団地建設に伴う埋蔵文化財調査報告書ー』
- 千葉市教育委員会社会教育課 1964 「発掘進む加曽利貝塚」つどい17
- 千葉市教育委員会文化課 1987 『史跡加曽利南貝塚予備調査概報 昭和61年度史跡整備に伴う物理探査および試掘調査報告』
- 千葉市教育委員会文化課 1990 『平成元年度 史跡加曽利貝塚環境整備に伴う事前調査概報』
- 千葉市史編纂委員会 1974 「加曽利貝塚」『千葉市史 原始・古代・中世編』
- 千葉市史編纂委員会 1976 「加曽利貝塚」『千葉市史 資料編 原始・古代・中世編』
- 千葉市文化課 1988 『昭和62年度史跡加曽利南貝塚環境整備事前調査報告書』
- 千葉市文化財調査協会 1989 「加曽利貝塚隣接地遺跡」『千葉市文化財調査協会年報1ー昭和60・61年度ー』
- 坪井正五郎 1907 「遠足会の結果」,東京人類学会第三回遠足会(下総国千葉郡都村大字加曽利貝塚調査)人類学雑誌23ー260
- 坪井正五郎 1910 「日本石器時代人民使用耳飾りの種類及び相互の関係」人類学雑誌25-286
- 東京国立博物館 1996 東京国立博物館図版目録 縄文遺物篇(土偶・土製品)
- 東京国立博物館 2003 「千葉県千葉市若葉区桜木町字京願台 加曽利貝塚出土品」東京国立博物館図版目録 縄文遺物篇(骨角器)
- 中谷治宇二郎 1924 「東大人類学倉庫跡より発見されし二個の石器に就いて」人類学雑誌39-7
- 西田泰民 2014 「1924年の加曽利貝塚調査」Anthropological Science(Japanese Series)122-2
- 野口義麿 1976 「遺構内から発見された土偶」『加曽利南貝塚』中央公論美術出版
- 長谷川陽 2008 「故 武田宗久氏保管遺物(武田宗久コレクション)の紹介(1)」貝塚博物館紀要35
- 樋口清之 1952 「腕飾考ー石器時代身体装飾品之研究 其六ー」上代文化23
- 平瀬信太郎 1926 「加曽利貝塚の貝類について」人類学雑誌41-3
- 藤澤宗平 1938 「加曽利貝塚に就いて」早高史学1
- 文藝春秋編 2005 「加曽利貝塚 日本最大規模の貝塚」『日本全国 見物できる古代遺跡100』文春新書
- 堀越正行 2002 「付・千葉市の貝塚に学ぶ」『フィールドの学ー考古地域史と博物館ー』後藤和民教授頌寿記念論文集編集委員会編
- 堀越正行 2016 「加曽利貝塚E地点の不承」唐澤考古35
- 村田六郎太 2013 『加曽利貝塚』同成社
- 山崎直方 1893a 「下総曾谷、千葉の二貝塚に就いて」人類学雑誌08-84
- 山崎直方 1893b 「下総貝塚遺物図解」人類学雑誌08-85
- 山内清男 1928 「下総上本郷貝塚」人類学雑誌43-10
- 八幡一郎 1924 「千葉県加曽利貝塚の発掘」人類学雑誌39-4・5・6
- 八幡一郎 1926 「汎太平洋学術会議見学旅行加曽利行」人類学雑誌41-12
- 八幡一郎 1930 「千葉県加曽利貝塚の発掘」『土器 石器』
- 八幡一郎 1935 「日本石器時代文化 関東地方」『日本民族』岩波書店
- 領塚正浩・松丸信治・小川貴司 2010 「小川栄一が記録した戦前の千葉・東京の貝塚」市立市川考古博物館館報37
- M・M生 1925 「下総加曽利貝塚行」人類学雑誌40-1
- (著者不明) 1909 「滑車形土製品一対揃いて発見さる」人類学雑誌24-277

研究論文	
赤沢威	1969 「縄文貝塚産魚類の体長組成並びにその先史漁撈学的意味—縄文貝塚民の漁撈活動の復源に関する一試論」人類学雑誌77-4
麻生優	1960 「縄文時代後期の集落」考古学研究7-2
阿部芳郎	1996 「水産資源の活用形態 縄文貝塚の種類」季刊考古学55
阿部芳郎	2000 「縄文時代の生業と中里貝塚の形成」『中里貝塚』北区教育委員会
阿部芳郎	2001 「縄文時代後晩期における大形堅穴建物址の機能と遺跡群」貝塚博物館紀要28 別冊
阿部芳郎	2005a 「貝食文化と貝塚形成」『地域と文化の考古学Ⅰ』明治大学文学部
阿部芳郎	2005b 「加曽利南貝塚における貝塚形成過程と集落展開」貝塚博物館紀要32別冊
阿部芳郎	2006 「巨大なムラ貝塚の形成背景—千葉市加曽利貝塚の形成過程と集落構造」『貝塚から読み解く暮らしの歴史—千葉に密集する貝塚に迫る—』文化財保存全国協議会千葉大会実行委員会
阿部芳郎	2007a 「環状盛土遺構」研究から地域社会を考える『縄文後・晩期の地域と社会Ⅰ』明治大学学術フロンティア公開シンポジウム予稿集
阿部芳郎	2007b 「巨大なムラ貝塚の形成背景—千葉市加曽利貝塚の形成過程と集落構造—」明日への文化財57
阿部芳郎	2009 「加曽利貝塚の形成過程と集落構造—調査記録の再検討と縄文集落研究の課題—」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』雄山閣
新井重三	1988 「遠くから運ばれた縄文時代の石—石器に使われた岩石の道を求めて—」『千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集』
新井重三他	1984 『貝塚博物館研究資料 第4集 縄文時代の石器—その石材の交流に関する研究—』
新井司郎	1973 『貝塚博物館研究資料 第1集 縄文土器の技術—その実験的研究序説—』
石井則孝・金子浩昌・後藤和民・堀越正行他	1978 『シンポジウム 縄文貝塚の謎』
石田収蔵	1906 「動物の残り物」東京人類学会雑誌249
伊藤和夫	1958 「貝塚より見た千葉市付近の海進海退」古代28
今井公子	1982 「いわゆる馬蹄形貝塚の中央凹地についての一考察」『論集房総史研究』名著出版
岩波書店	1963 「国土開発の爪痕」世界212
植月学	2000 「縄文時代後期における貝類採集活動の空間的構造」史観142
植月学	2001 「低地における貝塚形成の多様性」文化財研究紀要14, 東京都北区教育委員会
植月学	2014 「低地における貝塚形成の多様性からみた中里貝塚」『ハマ貝塚と縄文社会 国史跡中里貝塚の実像を探る』雄山閣
江坂輝彌	1975 「関東平野における貝塚遺跡から見た沖積世における海岸線の進退」『日本大学理学部地理学科五十周年記念論集』
江見水蔭	1915 「貝塚に就て」人類学雑誌30-2
遠藤美子, 遠藤萬里	1979 『東京大学総合研究資料館収蔵日本縄文時代人骨型録』
大串菊太郎	1920 「津雲貝塚及国府石器時代遺跡に対する二三の私見」民族と歴史3-4
大山柏	1934 「史前生業研究序説」史前学雑誌6-2
丘浅次郎	1895 「日本貝塚の貝類」東京人類学雑誌10-108
小笠原敦子	2003 「縄文時代の貝の調理法に関する考古学研究の歩み—1960年までの研究状況—」貝塚研究8
小笠原敦子	2004 「なぜ縄文時代の貝の調理法に関する研究が戦後に停滞したか?—1960年以降の研究を振り返って—」貝塚研究9
小川岳人	2012 「関東地方の縄文集落と貝塚」『シリーズ縄文集落の多様性Ⅲ 生活・生業』雄山閣
小澤清男・永嶋正春	2012 「加曽利貝塚等出土赤彩資料の理化学的分析調査」『漆—その歴史と文化』千葉市立郷土博物館
忍澤成視	2011 『貝の考古学』同成社
忍澤成視・村田六郎太・森本剛	2012 「千葉市加曽利貝塚出土の貝製品—その素材貝に着目した調査研究—」貝塚博物館紀要39
貝塚爽平・杉原重夫	1976 「加曽利南貝塚の地理」『加曽利南貝塚』中央公論美術出版
貝塚爽平他	1979 「千葉県の低地と海岸における完新世の地形変化(付都川・古山川合流点付近沖積層の珪藻群集)」第四紀研究17-4
貝塚爽平	1985 「日本の平野と海岸の生いたち」『日本の自然4』
覚張隆史・米田穰	2015 「加曽利貝塚出土イノシシ・シカの安定同位体分析」貝塚博物館紀要41
加藤晋平	1988 「環境考古学と加曽利貝塚」『千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集』
金子浩昌	1959 「縄文時代の漁撈活動」『千葉県石器時代遺跡地名表』千葉県教育委員会
金子浩昌	1973 「漁撈の展開」『古代史発掘2 縄文土器と貝塚』講談社
金子浩昌	1982 『貝塚博物館研究資料 第3集 貝塚出土の動物遺体』
金子浩昌	1983 「千葉県における貝塚遺跡の分布とその性格」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』千葉県教育委員会
金子浩昌	1988 「加曽利貝塚出土の動物質遺物からみた食糧と道具の諸問題」『千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集』
上守秀明	1986 「遺構内堆積貝塚のもつ意味について—有吉北貝塚の一事例の場合—」研究連絡誌15・16
木村賛	2001 『貝塚博物館研究資料 第6集 加曽利貝塚出土人骨の総合調査』
清野謙次	1915 「日本石器時代の骨角石器の製法に就いて」人類学雑誌30-9
清野謙次	1925 「日本の貝塚と石器時代墓地」『日本人の研究』岡書院
楠本政助	1973 「貝の保存と価値」『矢本町史第一巻』矢本町
久保大輔・佐々木智彦・諏訪元	2013 「加曽利貝塚由来人骨資料の調査・登録—近年新たに検出された1962年から1968年発掘資料について—」貝塚博物館紀要40
久保大輔・諏訪元	2008 「加曽利貝塚博物館所蔵、荒屋敷貝塚ならびに緑町小学校古人骨の保存状況」貝塚博物館紀要35
小池裕子	1979 「関東地方の貝塚遺跡における貝類採取の季節性と貝層の堆積速度」第四紀研究17-4
河野広道	1935 「貝塚人骨の謎とアイヌのイオマンテ」人類学雑誌50-4
小金井良精	1923 「日本石器時代人の埋葬状態」人類学雑誌38-1

- 後藤和民 1970 「原始集落研究の方法論序説」駿台史学27
- 後藤和民 1973 「縄文時代における東京湾沿岸の貝塚文化について」『房総地方史の研究』雄山閣出版
- 後藤和民 1979 「狩漁撈の技術と変遷」『日本の考古学を学ぶ(2)』有斐閣
- 後藤和民 1980 「縄文集落と貝塚 東京湾沿岸の漁撈活動を中心として」季刊どるめん24・25
- 後藤和民 1983a 「縄文集落の定着性についてー東京湾東岸の貝塚と集落を中心としてー」千葉史学2
- 後藤和民 1983b 「千葉県内における貝塚集落」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』千葉県教育委員会
- 後藤和民 1985 「馬蹄形貝塚の再吟味」『論集日本原史』吉川弘文館
- 後藤和民 1986 「縄文人の知恵と生活」『日本の古代4 縄文・弥生の生活』中央公論社
- 後藤和民 1987 「史跡整備のための予備調査」『加曽利貝塚博物館20年の歩みー野外博物館をめざしてー』
- 後藤和民 1988 「貝塚とは何かー加曽利貝塚と大型貝塚の意義ー」『千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集』
- 後藤和民 1990 「漁撈集落と貝塚の形成ー東京湾沿岸の大型貝塚を中心にしてー」『日本村落史講座2 景観』
- 後藤和民 1996 「海産物歳時記」『考古学による日本歴史2 産業Ⅰ 狩猟・漁撈・農業』雄山閣
- 後藤和民・熊野正也他 2009 「座談会 巨大貝塚はどう守られたのか」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』雄山閣
- 小林謙一・坂本稔・村田六郎 2013 「縄文土器製作に関する予備的実験」国立歴史民俗博物館研究報告175
- 太・加曽利貝塚土器づくり同好会
- 小宮孟 2013 「加曽利貝塚博物館収蔵のイヌおよびオオカミ遺存体」貝塚博物館紀要40
- 近藤義郎 1962 「縄文時代における土器製塩の研究」岡山大学法文学部学術紀要15,1-19
- 酒詰仲男 1938 「神奈川県下貝塚調査概報ー貝塚遺蹟による古代集落の研究」人類学雑誌53-1・2・3
- 酒詰仲男 1951 「地形上より見たる貝塚」考古学雑誌37-1
- 酒詰仲男 1956 「問題の回顧と展望③貝塚ー戦後日本における貝塚研究の動向についてー」古代学研究14
- 酒詰仲男 1961 『日本縄文石器時代食糧総説』土曜会『日本縄文石器時代食糧総説』土曜会
- 佐藤順一 1991 「縄文土器成形技法の一端を示す資料」貝塚博物館紀要18
- 佐藤順一 1993 「縄文土器成形技法の一端を示す資料(2)」貝塚博物館紀要20
- 佐藤武宏 2012 「東京湾盤洲干潟におけるイボキサゴの成長について」神奈川県立博物館研究報告(自然科学)41
- ジェラード・グロート 1941 「貝塚は捨て處であるか」民族文化2-11
- 設楽博己 2004 「再葬の背景 縄文・弥生時代における環境変動との対応関係」国立歴史民俗博物館研究報告112
- 柴田徹 2014 「加曽利貝塚石材再鑑定結果から」『平成25年度 千葉市遺跡発表会要旨』
- 嶋崎弘之 1980 「縄文中期の動物儀礼」ドルメン27
- 庄司克 1969 「加曽利南貝塚貝層中発見の炉跡について」貝塚博物館紀要02
- 庄司克 1983 「東京湾の貝塚」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』千葉県教育委員会
- 杉原重夫 1988 「千葉市付近における縄文時代の海岸線の位置と古地理」『千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集』
- 鈴木公雄 1979a 「貝塚における貝の総量について(上)」考古学ジャーナル170
- 鈴木公雄 1979b 「縄文時代論」『日本の考古学を学ぶ(3)』有斐閣
- 鈴木公雄 1980 「貝塚における貝の総量について(下)」考古学ジャーナル171
- 鈴木公雄 1988 「縄文村の大きさを考える」『古代史復元2 縄文人の生活と文化』講談社
- 鈴木公雄 1989 「貝塚の規模を比較する」『貝塚の考古学』東京大学出版会
- 鈴木尚 1935 「東京湾を繞る主要貝塚に於ける「はまぐり」の形態的变化に依る石器時代の編年学的研究」史前学雑誌7-2
- 鈴木正博・渡辺裕水 1976 「関東地方における所謂縄紋式「土器製塩」に関する小論」常総台地7
- 関根孝夫 1985 「貝塚覚書」『日本史の黎明ー八幡一郎先生記念考古学論集ー』六甲出版
- 芹沢長介 1960 『石器時代の日本』築地書館
- 高梨友子 1998 「東京湾東岸における縄文貝塚と埋葬」研究連絡誌52
- 武田宗久 1990 「縄文時代における東京湾東沿岸地域の海進海退(3)」貝塚博物館紀要17
- 田沢金吾 1935 「貝塚」ドルメン4-6
- 建石徹・津村宏臣・二宮修治 2004 「加曽利南貝塚出土黒曜石の原産地推定」貝塚博物館紀要31
- 建石徹・二宮修治 2005 「加曽利北貝塚出土黒曜石の原産地推定」貝塚博物館紀要32
- 建石徹・二宮修治 2008 「加曽利南貝塚東傾斜面出土黒曜石の原産地推定」貝塚博物館紀要35
- 田辺義一 1943 田辺義一「日本石器時代の朱について」人類学雑誌58-12
- 田原豊・中村純 1977 「稲作の起源と伝播に関する花粉分析学的研究-中間報告-」『千葉県における稲作の起源に関する花粉分析学的研究』文部省科学研究費特定研究
- 田原豊 1986 「加曽利貝塚における花粉分析」『史跡加曽利南貝塚整備基本設計』
- 田原豊 1988 「加曽利貝塚における花粉分析」『千葉市立加曽利貝塚博物館開館20周年記念特別講座講演集』
- 千葉県 2014 「沖積層基底部の深度分布(2地勢地質等)」千葉県石油コンビナート等防災計画(付属資料編)
- 千葉市史編纂委員会 1974a 「社会と集落」『千葉市史 原始・古代・中世編』
- 千葉市史編纂委員会 1974b 「生活と文化」『千葉市史 原始・古代・中世編』
- 坪井清足 1959 「縄文文化論」『岩波講座日本歴史1』岩波書店
- 坪井清足 1962 「縄文文化論」『岩波講座日本歴史1 原始および古代1』岩波書店
- 坪井正五郎 1888 「貝塚とはなんであるか」東京人類学会雑誌29
- 坪井正五郎 1906 「園生行の効果」東京人類学雑誌249,99.119-121
- デリッダー・パトリシア 1981 「日本の貝塚に関する一考察ーその1ー」考古学ジャーナル198
- デリッダー・パトリシア 1982 「日本の貝塚に関する一考察ーその2ー」考古学ジャーナル199
- 樋泉岳二 1999 「東京湾地域における完新世の海洋環境変遷と縄文貝塚形成史」国立歴史民俗博物館研究報告81
- 樋泉岳二 2001 「動物遺存体の分析」『千葉市多部田貝塚』千葉市文化財調査協会
- 樋泉岳二 2003a 「貝塚からみた生業活動と縄文社会ー動物資源利用から縄文後期下総台地の地域社会を探るー」『縄文社会を探る』学生社
- 樋泉岳二 2003b 「東京湾東岸の巨大貝塚と生業[千葉市加曽利貝塚]」『縄文社会を探る』学生社
- 樋泉岳二 2011 「貝塚博物館所蔵の加曽利貝塚出土魚類」貝塚博物館紀要38
- 樋泉岳二 2013 「動物資源利用からみた縄文後期における東京湾東岸の地域社会」動物考古学30
- 樋泉岳二・西野雅人 1999 「縄文後期の都川・村田川流域貝塚群」『研究紀要19』千葉県文化財センター
- 樋泉岳二・村田六郎太 1999 『貝塚博物館研究資料 第5集 貝層の研究Ⅰ』

卷末資料7 文献一覧

- 土岐仲男・竹下次作 1936 「神奈川県都築郡中川村山田字西ノ谷貝塚に於ける埋葬されたる犬の全身骨格発掘に就いて」史前学雑誌8-2
- 富沢威・庄司克他 1986 「土器の胎土分析とその応用ー加曽利貝塚を中心とした出土土器の放射化分析」貝塚博物館紀要13
- 富沢威・庄司克他 1988 「縄文土器の放射化分析」貝塚博物館紀要15
- 鳥居龍蔵 1928 「先史考古学概論」科学画報10-3
- 直良信夫 1926 「貝塚の研究(第1回)」歴史地理47-4
- 直良信夫 1938 「史前日本人の食糧文化」『人類学・先史学講座』1〜3
- 中島寿雄 1943 「中島寿雄」石器時代土偶の乳房及び下腹部膨隆に就いて」人類学雑誌58-7
- 中村敦子 1998 「土器製塩研究と実験考古学ー加曽利貝塚博物館による製塩実験ー」貝塚博物館紀要25
- 中村若枝 1991 「今再び「貝塚に学ぶ」ー貝塚研究の方向性に関する素描ー 国立歴史民俗博物館研究報告29
- 西野雅人 1999 「縄文中期的大型貝塚と生産活動ー千葉市有吉北貝塚の分析結果ー」『研究紀要19』千葉県文化財センター
- 西野雅人 2004 「貝塚」『千葉県の歴史 資料編考古4 遺跡・遺構・遺物』千葉県
- 西野雅人 2005a 「縄文時代の通年定住型集落を支えた食ー植物の発達と貝・小魚の通年利用ー」『研究紀要24』千葉県教育振興財団
- 西野雅人 2005b 「東京湾東岸の大型貝塚を支えた生産・居住様式」『地域と文化の考古学Ⅰ』明治大学文学部
- 西野雅人 2007 「東京湾東岸における大型貝塚形成と地域社会」『縄文後・晩期の地域と社会Ⅰ』明治大学学術フロンティア公開シンポジウム予稿集
- 西野雅人 2009 「イボキサゴー大型貝塚を形成した小さな貝ー」研究連絡誌70,千葉県教育振興財団
- 二宮修治・近藤久美・後藤和民・庄司克他 1979 「縄文土器製作の基礎的研究」東京学芸大学紀要 第4部門 数学・自然科学 31
- 林謙作 1924 「日本石器時代家犬に就いて(追加)」人類学雑誌40-1
- 東木龍七 1977 「縄文期の葬制第Ⅰ部 研究史」考古学雑誌62-4
- 日暮晃一 1926 「貝塚分布の地形学的考察」人類学雑誌41-11
- 日暮晃一 1983 「千葉市貝塚町貝塚群の研究」房総の郷土史11
- 日暮晃一 1986 「園生貝塚研究の歩みと課題」利根川10
- 日暮晃一 2007 「貝塚研究の今日的意義」明日への文化財57
- 日暮晃一・宋倉昭一郎・吉野健一他 2002 「縄文時代の貝食への接近」貝塚研究7
- 古内茂 2007 「大規模貝塚形成に関する一試論ー東京湾東岸の貝塚群を中心としてー」縄文時代18,縄文時代文化研究会
- 古内茂 2009 「東京湾東岸にみる大規模貝塚形成の背景」縄文時代20,縄文時代文化研究会
- 堀越正行 1972 「縄文時代の集落と共同組織」駿台史学31
- 堀越正行 1974 「馬蹄形貝塚研究序論」史館4
- 堀越正行 1980 「搬入土器と塩煮ー広義の船元式土器の場合ー」史館12
- 堀越正行 1983 「千葉県貝塚研究史」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』千葉県教育委員会
- 堀越正行 1985a 「縄文時代における分業の問題」『論集日本原史』吉川弘文館
- 堀越正行 1985b 「縄文時代の土器製塩と受給」季刊考古学12
- 堀越正行 1988 「加曽利貝塚と縄文時代の生活」『加曽利貝塚保存25周年記念講演会「加曽利貝塚と日本の考古学」』
- 堀越正行 1995 「中央窪地方馬蹄形貝塚の窪地と高まり序説」史館26
- 堀越正行 2009a 「貝塚を発掘した人々とその研究」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』雄山閣
- 堀越正行 2009b 「大規模開発と貝塚研究」『東京湾巨大貝塚の時代と社会』雄山閣
- 堀越正行 2010 「土器片錘の盛衰からみた縄文人の環境適応ー千葉の主な遺跡の状況からー」『環境史と人類 第3冊』明治大学学術フロンティア
- 堀越正行 2015a 「縄文時代の貝塚概観ー千葉県を中心としてー」JOMON4
- 堀越正行 2015b 「千葉市の貝塚調査史と人骨」千葉いまむかし28,千葉市立郷土博物館
- 前田潮 1983 「貝塚にみる縄文人の精神生活」歴史公論94
- 水嶋崇一郎・佐宗亜衣子ほか 2006 「縄文人骨データベース3千葉県の遺跡(堀之内、加曽利、曾谷など)」東京大学総合研究博物館標本資料報告61
- 水嶋崇一郎・諏訪元 2009 「東京大学総合博物館所蔵千葉市出土縄文人骨」貝塚博物館紀要36
- 南川雅男 1990 「アイトープ分析よりみる食生態と環境適応」学術月報46-12
- 南川雅男・赤沢威 1988 「縄文人の食糧摂取」遺伝42-10
- 宮本長二郎 1988 「祭祀建築」『古代史復元2 縄文人の生活と文化』講談社
- 村田六郎太 2012 「加曽利貝塚出土中型獣骨の基礎整理」貝塚博物館紀要39
- 村田六郎太 2013a 「加曽利貝塚出土貝刃の基礎的集成」貝塚博物館紀要40
- 村田六郎太 2013b 「加曽利貝塚と東京湾東岸の大型環状貝塚の成立」『講演会 なぜ大型貝塚が遺ったか』
- 村田六郎太 2015 「加曽利北貝塚中型獣骨の基礎整理」貝塚博物館紀要41
- 村本周三・永嶋正春 2007 「加曽利貝塚博物館における縄文土器を用いた調理実験」貝塚博物館紀要34
- 矢倉和三郎 1922 『介類叢話趣味・研究』
- 山内清男 1942 「石器時代の犬小屋」民族文化3-8
- 山内清男 1964 「日本先史時代概説」『日本原始美術1』
- 若林勝邦 1892 「下総武蔵相模ニ於ケル貝塚ノ分布」東京人類学会雑誌73
- 和島誠一 1958 「原始聚落の構成」『日本歴史学講座』学生書房
- 渡辺誠 1963 「縄文中期における網漁撈の発生とその意義」考古学手帖17
- T.Nakajima,T.Otsuki,M.Aonuma,J. Satou,M.Shouji 1993 「Dating of shellmound at Chiba-city in Japan」Applied Radiation and Isotopes,44(1-2)

文化財保護・概説書・教育普及・研究史・史跡整備・地名表	
青木繁夫	1996 「加曽利貝塚遺構の保存について」貝塚博物館紀要23
青沼道文	2011 「加曽利貝塚をとりまく状況」貝塚30(加曽利貝塚友の会会報)
秋葉光太郎・村田六郎太	1996 「加曽利北貝塚の野外施設について－観察される現状と問題を中心に－」貝塚博物館紀要23
阿部芳郎	2004 「加曽利貝塚への見学会」『失われた史前学 公爵大山柏と日本考古学』岩波書店
阿部芳郎	2007 「貝塚から縄文社会を読み解く」考古学ジャーナル563, 特集縄文貝塚と社会 大森貝塚発掘130周年記念
甘粕健	1964 「加曽利貝塚の発掘と保存運動」考古学手帖23
甘粕健	1977 「加曽利貝塚の原始集落の広がり」「度重なる危機と、広域保存の運動の発展」『埋蔵文化財のはなし』三省堂選書
甘粕健	1988 「加曽利貝塚保存の歴史」『加曽利貝塚保存25周年記念講演会「加曽利貝塚と日本の考古学」』
新井重三	1987 「加曽利貝塚の野外博物館構想」『加曽利貝塚博物館20年の歩み－野外博物館をめざして－』
石井則孝	1998 「関東」日本考古学6(特集 日本考古学の50年)
石毛直道他	2010 「加曽利貝塚を訪ねる」『社会6』光村図書(小学校社会科用)
石毛博	1997 ちば開発夜話
石部正志	1995 「基調報告 戦後の文化財保存運動の総括と展望」文化財保存全国協議会結成25周年記念大会特集号) 明日への文化財(36・37)
伊藤和夫	1955 『千葉県縄文遺蹟地名表』千葉県東部及千葉市の一部
伊藤和夫	1955 『千葉県縄文遺蹟地名表(第二輯)』千葉市, 千葉郡西部及印旛郡南部
伊藤和夫	1959 「千葉県の石器時代文化」『千葉県石器時代遺蹟地名表』千葉県教育委員会
伊藤和夫・金子浩昌	1959 『千葉県石器時代遺蹟地名表』千葉県教育委員会『千葉県石器時代遺蹟地名表』千葉県教育委員会
伊波新之助	1982 「わが想い出の加曽利貝塚」『カルチャー千葉』2
上野豪彦	1968 「世界的史跡を守る－「守る会」と「友の会」について－」貝塚博物館紀要創刊号
牛沢百合子	1980 「縄文貝塚研究史序説」付: 貝塚研究し・参考文献季刊どるめん24・25
大崎智子	2009 「加曽利貝塚の保存運動」『千葉県の歴史 通史編 近現代3』千葉県
岡本勇	1964 「加曽利貝塚の意義」考古学研究10-1
岡本勇・戸沢充則	1965 「関東」『縄文時代 日本の考古学Ⅱ』河出書房新社
加曽利貝塚土器づくり同好会	1995 「同好会座談会」「同好会活動内容」縄文の炎特別号
加曽利貝塚友の会	1986 「あゆみ 千葉市立加曽利貝塚博物館・博物館友の会」貝塚3, 加曽利貝塚友の会会報
加藤公明	1983 「加曽利の犬と印旛の象－「考える日本史」のために－」千葉史学3
加藤公明	1986 「加曽利の犬と印旛の象」その後 千葉史学9
加藤公明	1992 「加曽利の犬の謎を追え－生徒に歴史認識の自由と主体性を(日本史討論授業)－」教育42-4
加藤公明	1995 「教材の選定と問題提起の方法」『日本史討論授業のすすめ方』日本書籍
加藤公明	2000 「加曽利の犬の謎を追え」『考える日本史授業2 絵画でビデオで大論争!』地歴社
金子浩昌	1965 「貝塚と食料資源」『縄文時代 日本の考古学Ⅱ』河出書房新社
金子浩昌	1987 「貝塚博物館の新しいヴィジョンを求めて」『加曽利貝塚博物館20年の歩み－野外博物館をめざして－』
喜谷美宣	1965 「加曽利貝塚見学記」連絡紙No.13, 65.01.10
朽津信明・吉田充夫他	1999 「加曽利貝塚遺跡における遺構保存を目的とした環境調査(I)」貝塚博物館紀要26
朽津信明・青木繁夫	2000a 「加曽利貝塚遺跡における遺構保存を目的とした環境調査(II)」貝塚博物館紀要27
朽津信明・青木繁夫	2000b 「加曽利貝塚遺跡における遺構保存を目的とした環境調査(III)」貝塚博物館紀要28
朽津信明	2013 「日本の「遺跡保存」の歴史と「保存科学」の役割」保存科学52
小池公子	1967 『千葉市内主要貝塚現状予備調査報告』
考古学研究会	1963 「国会会議録から」考古学研究9-4
考古学研究会	1965 「登呂と加曽利－参議院文教委員会会議録からの要旨－」考古学研究12-2
小金井良精・松村瞭	1926 「Kasori Shell-Heaps」『Japan Guide-Books, Excursions, Pan-Pacific Science Congress, 11』
後藤和民	1970 「昭和43年度 野外施設整備調査概報」貝塚博物館紀要03
後藤和民	1971 「加曽利貝塚の保存と博物館」月刊文化財94
後藤和民	1974 「東京湾東岸の貝塚群とその保存」考古学研究21-2
後藤和民	1975 「地方史研究と博物館」地方史研究133
後藤和民	1980 『縄文土器をつくる』中公新書
後藤和民	1982 「博物館における体験学習－千葉市加曽利貝塚博物館における「土器づくりの会」について」博物館研究 17-8
後藤和民	1983 「そもそも「行政的遺跡」とは何ぞや－S君に問う－」考古学研究30-3
後藤和民	1987a 「加曽利貝塚の意義」『加曽利貝塚博物館20年の歩み－野外博物館をめざして－』
後藤和民	1987b 「加曽利貝塚の整備計画」『加曽利貝塚博物館20年の歩み－野外博物館をめざして－』
後藤和民	1987c 「地域の野外博物館 二十一世紀における文化活動の場として」調査季報94
後藤和民	1988 「加曽利貝塚の史跡整備について」『加曽利貝塚保存25周年記念講演会「加曽利貝塚と日本の考古学」』
後藤和民	1991 「史跡整備と野外博物館－縄文の森と水辺」構想を中心にして－平成2年度千葉県博物館協会研修会資料
後藤和民	1998 「縄文土器に学ぶ」『国語』光村図書(中学校国語科用)
後藤和民他	1980 『貝塚博物館研究資料 第2集 集落遺構の保存』
後藤守一	1927 「貝塚」『日本考古学』四海書房
小宮恒雄	1966 「埋蔵文化財保護運動の歩み」マイクロス21
近藤義郎	1962 「埋蔵文化財の危機」世界196
近藤義郎	1965 「加曽利貝塚を思う」考古学研究11-3
斎木勝	1987 「研究略史」『房総考古学ライブラリー2 縄文時代1』千葉県文化財センター
斎木勝	2005 「史跡荒屋敷貝塚の意位置付け」研究紀要24, 千葉県教育振興財団

巻末資料7 文献一覧

- 斎藤忠・杉原莊介 1965 「加曽利貝塚調査特別委員会報告」彙報29,日本考古学協会
 斎藤忠 1965 「加曽利貝塚調査特別委員会」彙報30,日本考古学協会
 斎藤忠 1966 「加曽利貝塚調査特別委員会報告」彙報32,日本考古学協会
 斎藤忠 1967 「加曽利貝塚調査特別委員会報告」彙報34,日本考古学協会
 斎藤忠 1968 「加曽利貝塚調査特別委員会報告」彙報36,日本考古学協会
 斎藤忠 2001 「考古学史上の江見水蔭」『江見水蔭』地底探検記』の世界 解説・研究編』雄山閣出版
 酒詰仲男 1962 「貝塚」『日本考古学辞典』東京堂出版
 酒詰仲男 1964 『日本貝塚地名表』土曜会
 酒詰仲男・篠遠喜彦ほか 1951 「加曽利貝塚」『考古学辞典』改造社
 穴倉昭一郎 1972 「千葉市貝塚町貝塚群の危機と意義」文化財保存対策協議会連絡誌 1972年10月
 穴倉昭一郎 1980 「資料館めぐり2 加曽利貝塚博物館」房総史学20
 穴倉昭一郎 1984 「加曽利貝塚の広域保存と活用 保存問題の推移」文化財を守るために25
 清水潤三 1964 「加曽利貝塚に立つて」『日本原始美術 第3巻 弥生式土器』付録,講談社
 十菱駿武 1979 「埋蔵文化財保存運動の現状と課題」歴史評論346
 十菱駿武 2006 「加曽利貝塚」『新版 遺跡保存の事典』平凡社
 庄司克 1987a 「博物館活動の経過」『加曽利貝塚博物館20年の歩みー野外博物館をめざしてー』
 庄司克 1987b 「博物館活動の現状と諸活動」『加曽利貝塚博物館20年の歩みー野外博物館をめざしてー』
 常任委員会 1964 文化財保護運動の現状と課題考古学研究10-4
 菅谷通保 2015 「加曽利貝塚①ー加曽利貝塚のこれまでとこれからー」『平成26年度 千葉市遺跡発表会要旨』
 杉山義命 1966 「加曽利貝塚公園植栽計画試案ー生態学的立場よりのアプローチー」都市公園40
 杉山義命 1968 「日本におけるくニフ>空間発生の一源流ー加曽利貝塚のケース・スタディ」造園雑誌32-1
 鈴木公雄 1980 「貝塚の研究と自然遺物」季刊どるめん24・25
 鈴木公雄 1988 「加曽利貝塚と貝塚研究の歩み」『加曽利貝塚保存25周年記念講演会「加曽利貝塚と日本の考古学」』
 西武美術館 1983 『房総の縄文人展 日本一の貝塚』
 関矢健男 1996 「加曽利北貝塚の貝層断面観覧施設の保存処理」貝塚博物館紀要23
 第三回汎太平洋学術会議常務委員会 1926 『第三回汎太平洋学術会議第二要報』
 滝口宏 1962 「埋蔵文化財の危機 悪質違反者を取り締まれ」(随筆<日本の伝統・文化一捨てるべきもの・残すべきもの>) 論争4-11
 滝口宏 1987 「21世紀の博物館をめざしてーあと15年ー」『加曽利貝塚博物館20年の歩みー野外博物館をめざしてー』
 武田宗久 1963 「加曽利貝塚の発掘と現状について」『日本考古学協会第29回総会発表要旨』
 武田宗久 1964 「ー世界的な文化財を守ろうー加曽利貝塚の意義と保存対策」房総史学5
 武田宗久 1968 「加曽利貝塚の意義と保存対策」貝塚博物館紀要創刊号
 武田宗久 1982 「鈴木正夫先生と加曽利貝塚」千葉文華17
 武田宗久 1984 「加曽利貝塚の保存」高校通信書日本史世界史100,東京書籍
 武田宗久 1985 「あわや壊滅! 保存てんまつ記 加曽利貝塚物語(上) 貝塚1,加曽利貝塚友の会会報
 武田宗久 1986 「あわや壊滅! 保存てんまつ記 加曽利貝塚物語(下) 貝塚2,加曽利貝塚友の会会報
 武田宗久 1987 「加曽利貝塚の保存と博物館開館の経緯」『加曽利貝塚博物館20年の歩みー野外博物館をめざしてー』
 武田宗久 2002a 「加曽利貝塚の保存ーみんなで対策を講ぜようー」貝塚博物館紀要29
 武田宗久 2002b 「日本一の加曽利貝塚ー世界的な“文化”を守ろうー」貝塚博物館紀要29
 千葉県教育委員会 1983 『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』
 千葉市 1982 『千葉市史跡整備基本構想』
 千葉市 1985 『千葉市史跡整備基本計画』
 千葉市 1987 『縄文の森と水辺基本構想 調査報告書』
 千葉市 1994 『(仮称)縄文の森基本計画報告書』
 千葉市 2011 『千葉市文化施設等の市民ニーズ・利用実態調査報告書』
 千葉市 2012 『千葉市文化施設等の市民ニーズ・利用実態調査報告書』
 千葉市教育委員会 1986 『史跡加曽利南貝塚整備基本設計』
 千葉市教育委員会 1997 『千葉市教育史 史料編4』
 千葉市史跡整備基本計画策定委員会 1983 『史跡整備の方法ー縄文貝塚の整備ー』
 千葉市市長公室広報課 1981 「加曽利貝塚ー狩りと漁りのむら」市民フォト千葉35
 千葉市の遺跡を守る会 1971 千葉市の遺跡を守る会会報1
 千葉市の遺跡を守る会 1983 「加曽利貝塚の保存に関する要望書」後藤1983論文に参考資料として所収
 千葉市立加曽利貝塚博物館 2002 「武田宗久先生略年譜・著作目録」貝塚博物館紀要29
 調査員明大班 1964 「加曽利村だより」1~9
 土屋秀雄 1990 「縄文人のパワーを活かした「縄文の森と水辺」の早期実現を望む」加曽利博友の会会誌 貝塚6
 坪井清足 1998 「発掘された古代史と文化財保護50年」日本考古学6(特集 日本考古学の50年)
 勅使河原彰 1988 「実証的研究の確立期 1912~1944年」『日本考古学の現状 1962年以降』『日本考古学史 年表と解説』 東京大学出版会
 勅使河原彰 1995a 「加曽利貝塚の発掘と縄文土器の編年研究」『日本考古学の歩み』
 勅使河原彰 1995b 「文化財保存運動の新動向」『展望考古学 考古学研究会40周年記念論集』
 登石健三 1987 「遺構の保存科学的研究の推移」『加曽利貝塚博物館20年の歩みー野外博物館をめざしてー』
 樋泉岳二 2001 「貝塚の時代ー縄文の漁労文化」『NHKスペシャル 日本人はるかな旅3 森が育てた海の王国』日本放送出版協会
 東京帝国大学 1898 『日本石器時代人民遺物発見地名表』
 直良信夫 1949 『貝塚の話 私たちの祖先の生活』・さ・え・ら書房
 中澤澄男・八木契三郎 1906 「貝塚」『日本考古学』博文館

- 長野県考古学会 1976 「藤沢周平先生年譜」長野県考古学会誌27
- 長原直 2015 「土器づくり体験学習と千葉市の事例」考古学ジャーナル666
- 中谷治宇二郎 1928 「貝塚」『日本石器時代提要』岡書院
- 西野雅人 2015 「加曽利貝塚②ー加曽利貝塚の価値をことばにするー」『平成26年度 千葉市遺跡発表会要旨』
- 西村正衛 1965 「埋葬」『縄文時代 日本の考古学Ⅱ』河出書房新社
- 西本豊弘 1991 「動物考古学の現状と課題」歴史民俗博物館研究報告29
- 日本考古学協会 1963 「加曽利貝塚保存に関する件」彙報26,日本考古学協会
- 日本考古学協会 1964 「会務協議2加曽利貝塚調査特別委員会」彙報28,日本考古学協会
- 日本考古学協会 1965a 「加曽利貝塚調査特別委員会」彙報30,日本考古学協会
- 日本考古学協会 1965b 「総会議事」彙報30,日本考古学協会
- 日本考古学協会 1971 「埋蔵文化財破壊の経過と現状」『埋蔵文化財白書』学生社
- 日本考古学協会50周年記念出版特別委員会 1998 「日本考古学協会設置の特別委員会一覧」日本考古学6(特集 日本考古学の50年)
- 野上丈助 1965 「加曽利貝塚」連絡紙No.13、65.01.10
- 橋口尚武 1983 「史跡「加曽利貝塚」隣接地の試掘はこれでよいのか!!」考古学研究30-3
- 長谷川正三 1982 『21世紀への挑戦ー長谷川正三・闘いの記録』
- 長谷部言人 1942 「貝塚」『文化講座』大阪毎日新聞社
- 馬場悠男 2005 「縄文の骨を調べる 加曽利の人骨から姿と暮らしを探る」『特別展 縄文vs弥生』国立科学博物館
- 林謙作 1976 「加曽利貝塚調査団「加曽利南貝塚」」考古学雑誌 62-1
- 文化財保護対策協議会 1964a 「京葉工業地帯の造成と埋蔵文化財」考古学研究11-2
- 文化財保護対策協議会 1964b 「将軍山古墳・加曽利貝塚・その他ー国会会議録からー」考古学研究11-2
- 文化財保護対策協議会 1965a 「署名活動開始! 加曽利貝塚」文対協ニュースNo.1、1965.7.17
- 文化財保護対策協議会 1965b 「全面保存への気運高まる 加曽利貝塚」文対協ニュースNo.2、1965.10.25
- 文化財保護対策協議会関西 1964a 「加曽利貝塚の北半分の保存実現 千葉市が1億500万円を計上」連絡紙No.11
- 文化財保存協議会
- 文化財保護対策協議会関西 1964b 「加曽利貝塚保存のために」連絡紙No.12、64.10.24
- 文化財保存協議会
- 文化財保護対策協議会関西 1965a 「泥沼の加曽利貝塚調査」連絡紙No.15、1965.4.30
- 文化財保存協議会
- 文化財保護対策協議会関西 1965b 「冬の加曽利貝塚調査」連絡紙No.15、1965.4.30
- 文化財保存協議会
- 文化財保護対策協議会関西 1966 「加曽利貝塚保存署名21000名に達する」連絡紙No.17,66.4.29
- 文化財保存協議会
- 文化財保存全国協議会・文化財保護対策協議会 1971 『堀之内貝塚と加曽利貝塚』
- 房総展望社 1963 「座談会 世界的史跡 加曽利貝塚の保存について」房総展望17-4(通号163),房総展望社
- 堀越正行 1998 「人類学雑誌の千葉県考古学関係記事」千葉県史研究6
- 堀越正行 2000 「千葉県の考古学研究のあゆみ」『千葉県の歴史 資料編考古1(旧石器・縄文時代)』
- 堀越正行 2004 「「縄文の森」整備構想ー千葉市加曽利貝塚ー」『千葉県の歴史 資料編考古4 遺跡・遺構・遺物』千葉県
- 堀越正行 2008 「加部厳夫「古器物見聞の記」とその周辺ー千葉貝塚研究の端緒ー」『千葉の貝塚に学ぶ』私家本
- 前田洋子 1965 「加曽利貝塚を見学して」連絡紙No.13、65.01.10
- 宮原武夫 1975 「加曽利貝塚博物館の魅力」『房総の民衆の歴史と現実ー現地見学案内ー』千葉県歴史教育者協議会
- 宮原武夫 1981 「歴史の認識と地域の文化財」『歴史認識と授業』岩崎書店
- 宮原武夫 1992 「保存された加曽利貝塚 縄文時代の千葉」『千葉県の民衆の歴史50話』桐書房
- 宮原武夫・石山久男他 2005 「縄文時代のイヌはなぜ埋葬されたのか」『高校日本史B』実教出版
- 村田六郎太 1999 「加曽利貝塚ー土器づくり同好会とその運営(特集 史跡の活用と運営)ー(運営をめぐる試みと仕掛け)」緑の読本50
- 村田六郎太 2008 「故 武田宗久氏保管資料(武田宗久コレクション)について」貝塚博物館紀要35
- 村田六郎太 2010 「加曽利貝塚と地域文化の創生」遺跡学研究10
- 村田六郎太 2014 「史跡加曽利貝塚」『2014年度日本遺跡学会東京大会発表資料集』日本遺跡学会
- 明治大学考古学研究会・考古学研究会 1964 「加曽利貝塚ー守ろう・埋蔵文化財を!ー」
- 明治大学文化財研究会 1964a 「特集 加曽利貝塚」連絡No.4,1964.7.
- 明治大学文化財研究会 1964b 「加曽利貝塚」連絡紙No.23,1964.8.1、北海道青年人類科学研究会
- 明治大学文化財研究会 1964c 「続加曽利貝塚」連絡紙No.23,1964.8.1、北海道青年人類科学研究会
- 森本剛 2012 「史跡公園は今:保存と活用への新たな動き 縄文文化を体感できる史跡を目指して:千葉県加曽利貝塚」考古学研究58-4
- 薬師寺崇 1971 「昭和44年度 野外施設整備調査概報」貝塚博物館紀要04
- 薬師寺崇 1972 「昭和45年度 野外施設整備調査概報」貝塚博物館紀要05
- 薬師寺崇 1981 「昭和46年度野外施設整備調査概報」貝塚博物館紀要06
- 薬師寺崇 1984 「野外施設における現状と問題点」貝塚博物館紀要11
- 山田勉・小玉幸多他 1985 「加曽利貝塚ー貝をとって暮らしをたてていた人たちー」『小学社会6上』日本書籍
- 山内清男 1964 「日本先史時代概説」『日本原始美術1』講談社
- 山本勇 1995 「加曽利南貝塚の整備を終えて」貝塚博物館紀要22
- 山本勇・村田六郎太他 2006 「史跡加曽利貝塚における復元住居火災の一事例」貝塚博物館紀要33
- 和島誠一 1963 「平城宮跡の保護をめぐる」考古学研究9-4
- Junko Habu 2004 「Maritime adaptation and development of shell-middens」『Ancient Jomon of Japan』Cambridge University Press
- Keiji Imamura 1996 「Earliest pottery and the dates controversy」『Prehisutoric Japan new perspectives on insular East Asia』University of Hawaii Press
- Nelly Naumann 2000 「from Middle to Late Jomon」『Japanese Prehistory: The Material and Spiritual Culture of the Jomon Period』

巻末資料8 新聞記事見出し一覧

第1次保存運動			
昭和37年9月30日	1962	市政だより	貴重な土器など発見 加曽利貝塚の発掘調査
昭和38年4月22日	1963	千葉日報	盛り上がる保存運動 きょう文部省が視察
昭和38年4月24日	1963	千葉日報	加曽利貝塚を保存せよ (社説)
昭和38年6月18日	1963	千葉日報	21日に設立総会を 加曽利貝塚を守る会
昭和38年6月24日	1963	千葉日報	国鉄千葉駅などで署名運動 加曽利貝塚を守る会
昭和38年7月7日	1963	千葉日報	永久保存に決まる 千葉市の加曽利貝塚
昭和38年7月9日	1963	朝日	加曽利貝塚, 一部を保存 県が解決に乗り出す
昭和38年7月17日	1963	千葉日報	加曽利貝塚の保存本格化 一万坪買い上げ折衝
昭和38年7月19日	1963	朝日	加曽利貝塚買い上げ県に陳情
昭和38年8月3日	1963	千葉日報	加曽利貝塚も視察 保存に協力表明
昭和38年8月6日	1963	千葉日報	さらに二万平方メートル確保 宮内千葉市長語る
昭和38年8月23日	1963	読売(千葉)	こわされる加曽利貝塚 千葉市 工場建設でピンチに
不明	不明	毎日(千葉)	加曽利貝塚の保存 (房総週評)
保存計画・博物館設立へ			
昭和38年9月4日	1963	千葉日報	古代しのぶ大公園 着々と進む保存計画
昭和38年9月14日	1963	産経	加曽利貝塚に博物館 県下の埋蔵文化財を収容
昭和40年1月1日	1965	市政だより	浄化場を造り下水整備 加曽利貝塚には陳列館
昭和40年1月1日	1965	市政だより	加曽利貝塚出土品展
昭和40年4月1日	1965	市政だより	加曽利貝塚には陳列館を建設
昭和41年6月1日	1966	市政だより	三つの観光文化施設を建設 郷土博物館・海洋公民館・加曽利貝塚
昭和41年8月1日	1966	市政だより	加曽利貝塚跡に陳列館を建設中
昭和41年12月1日	1966	市政だより	貝塚博物館が開館
昭和42年3月1日	1967	市政だより	貝塚博物館
南貝塚大発掘と第2次保存運動			
昭和38年11月1日	1963	市政だより	世界的な埋蔵文化財 加曽利貝塚 規模は日本一
昭和39年7月18日	1964	毎日	世界考古学会に貴重な資料 加曽利貝塚発掘の意義
昭和39年8月1日	1964	毎日	40年ぶり大発掘 4,5千年前の円型住居跡
昭和39年8月1日	1964	市政だより	8月から発掘調査 一流考古学者の手で 千葉加曽利貝塚の南貝塚
昭和39年8月4日	1964	毎日(千葉)	加曽利貝塚調査団本格的調査始まる 女子高生らも参加
昭和39年8月8日	1964	毎日	四千年前の郷土徐々に明るみへ 加曽利貝塚調査, 一週間の成果
昭和39年9月1日	1964	市政だより	加曽利貝塚の発掘すすむ 人骨, 土偶など出土
昭和39年10月1日	1964	市政だより	加曽利貝塚の発掘すすむ 完全に残す古代の姿
昭和39年12月1日	1964	市政だより	加曽利貝塚の発掘調査開始(8月)
昭和40年6月1日	1965	市政だより	加曽利貝塚を公園に 四千年前の世界を再現 皇太子さまが貝塚ご見学
第3次保存運動(加曽利貝塚東傾斜面)			
昭和46年8月20日	1971	読売	貝塚受難 集落研究のため広い環境保存を

第4次保存運動(加曽利貝塚南側隣接地)

昭和58年9月9日	1983	毎日(千葉)	予備調査せず開発許可 県、千葉市教委 守る会の調べでわかる「遺跡の可能性ある」
昭和58年11月21日	1983	毎日(千葉)	千葉・加曽利貝塚隣接地開発 最良の縄文遺跡守れ!! 文化財保存全国協 現地を調査
昭和58年12月5日	1983	毎日夕(全国)	加曽利貝塚隣接”遺跡”未確認で宅造 県教委、調査もせず業者の申請を認める
昭和58年12月9日	1983	千葉日報	「来年早々にも調査」加曽利貝塚隣接の宅造現場 県教委が対策約束
昭和58年12月9日	1983	毎日(千葉)	保存を改めて要望 加曽利貝塚隣接地宅造問題 県に日本考古学協
昭和58年12月9日	1983	読売(京葉)	加曽利貝塚隣接地の宅地開発 当分の間凍結
昭和58年12月9日	1983	朝日(京葉)	無調査での宅地化反対 加曽利貝塚の隣接地
昭和58年12月26日	1983	読売(京葉)	加曽利貝塚隣接地の宅地化「傾斜地含め全面保存を」 千葉市文化財審建議書提出

特別史跡へ向けた取り組み

平成26年7月4日	2014	産経(千葉)	加曽利貝塚のキャラ「かそりーぬ」に決定
平成26年7月4日	2014	日経(千葉)	加曽利貝塚のキャラ「かそりーぬ」に決定 博物館でお披露目
平成26年7月4日	2014	読売(京葉)	加曽利貝塚のPRキャラ決定
平成26年7月4日	2014	朝日(千葉)	私は縄文時代から来た「かそりーぬ」 加曽利貝塚PRキャラ決定 全国661点の応募から選ばれる
平成26年7月4日	2014	千葉日報	狩猟の友「犬」がモチーフ「かそりーぬ」です! 加曽利貝塚キャラお披露目
平成26年7月30日	2014	毎日(千葉)	5,000年前の縄文人の暮らしを語る「加曽利貝塚」博物館 特別史跡目指す 老朽化改修で来月から休館
平成26年9月18日	2014	東京(千葉中央)	耐震改修を断念 加曽利貝塚博物館千葉市若葉区「史跡内建造物好ましくない」文化庁の指導受け
平成26年9月18日	2014	日経(千葉)	特別史跡申請、1年先送り 加曽利貝塚 千葉市、2017年度以降に
平成26年9月18日	2014	朝日(千葉)	加曽利貝塚 博物館移転も視野 千葉市教委 保存管理へ計画
平成26年9月18日	2014	読売(京葉)	貝塚博物館本館 耐震・刷新見送り
平成26年9月18日	2014	千葉日報	博物館リニューアル凍結 史跡外へ移転検討「特別指定」申請 2年先送り
平成26年10月13日	2014	千葉日報	加曽利貝塚博物館リニューアル凍結「特別史跡指定」後退か
平成26年11月13日	2014	毎日(千葉)	加曽利貝塚博物館リニューアル凍結「特別史跡」指定に波紋「お役所事情」見え隠れ
平成27年5月27日	2015	千葉日報	適切保存を協議 加曽利貝塚 特別指定目指す 市史跡委初会合
平成27年6月18日	2015	千葉日報	縄文時代に和食のルーツ? 大量イボキサゴに注目 木更津・盤洲干潟で採取会
平成27年12月2日	2015	千葉日報	案内看板リニューアル 加曽利貝塚博物館 新千葉RCの寄附受け
平成27年12月9日	2015	読売(千葉)	縄文の雰囲気残す

その他

平成1年	1989	読売(地域)	文化財保護か住民の利益か 加曽利貝塚の整備「生活道路確保を」市議会に陳情書
平成1年12月14日	1989	読売(地域)	着工は当面凍結 加曽利貝塚(千葉)の整備変更陳情受け 文化庁と再協議
平成2年5月16日	1990	毎日(千葉)	千葉・加曽利貝塚整備計画めぐり対立 文化財保護か 道路の利便か 住民の不満残す
平成2年10月12日	1990	読売(論点)	世界最大級の貝塚一部道路化は反対
平成4年11月4日	1992	朝日(千葉)	面白そう縄文フェスティバル 日本最大の加曽利貝塚

巻末資料9 文化財保護法(抜粋)

文化財保護法

(昭和二十五年五月三十日法律第二百十四号)

最終改正:平成二六年六月一三日法律第六九号

第一章 総則

(この法律の目的)

第一条 この法律は、文化財を保存し、且つ、その活用を図り、もつて国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする。

(文化財の定義)

第二条 この法律で「文化財」とは、次に掲げるものをいう。

一 建造物、絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書その他の有形の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの(これらのものと一体をなしてその価値を形成している土地その他の物件を含む。)
並びに考古資料及びその他の学術上価値の高い歴史資料(以下「有形文化財」という。)

二 演劇、音楽、工芸技術その他の無形の文化的所産で我が国にとって歴史上又は芸術上価値の高いもの(以下「無形文化財」という。)

三 衣食住、生業、信仰、年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服、器具、家屋その他の物件で我が国民の生活の推移の理解のため欠くことのできないもの(以下「民俗文化財」という。)

四 貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅その他の遺跡で我が国にとって歴史上又は学術上価値の高いもの、庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの並びに動物(生息地、繁殖地及び渡来地を含む。)、植物(自生地を含む。)
及び地質鉱物(特異な自然の現象の生じている土地を含む。)
で我が国にとって学術上価値の高いもの(以下「記念物」という。)

五 地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又

は生業の理解のため欠くことのできないもの(以下「文化的景観」という。)

六 周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統的な建造物群で価値の高いもの(以下「伝統的建造物群」という。)

2 この法律の規定(第二十七条から第二十九条まで、第三十七条、第五十五条第一項第四号、第一百五十三条第一項第一号、第一百六十五条、第一百七十一条及び附則第三条の規定を除く。)中「重要文化財」には、国宝を含むものとする。

3 この法律の規定(第九十九条、第一百条、第一百二十二条、第一百二十二条、第一百三十一条第一項第四号、第一百五十三条第一項第七号及び第八号、第一百六十五条並びに第一百七十一条の規定を除く。)中「史跡名勝天然記念物」には、特別史跡名勝天然記念物を含むものとする。

(政府及び地方公共団体の任務)

第三条 政府及び地方公共団体は、文化財がわが国の歴史、文化等の正しい理解のため欠くことのできないものであり、且つ、将来の文化の向上発展の基礎をなすものであることを認識し、その保存が適切に行われるように、周到の注意をもつてこの法律の趣旨の徹底に努めなければならない。

(国民、所有者等の心構)

第四条 一般国民は、政府及び地方公共団体がこの法律の目的を達成するために行う措置に誠実に協力しなければならない。

2 文化財の所有者その他の関係者は、文化財が貴重な国民的財産であることを自覚し、これを公共のために大切に保存するとともに、できるだけこれを公開する等その文化的活用努めなければならない。

3 政府及び地方公共団体は、この法律の執行に当たって関係者の所有権その他の財産権を尊重しなければならない。

第七章 史跡名勝天然記念物

(指定)

第九十九条 文部科学大臣は、記念物のうち重要なも

のを史跡、名勝又は天然記念物(以下「史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

2 文部科学大臣は、前項の規定により指定された史跡名勝天然記念物のうち特に重要なものを特別史跡、特別名勝又は特別天然記念物(以下「特別史跡名勝天然記念物」と総称する。)に指定することができる。

3 前二項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者に通知してする。

4 前項の規定により通知すべき相手方が著しく多数で個別に通知し難い事情がある場合には、文部科学大臣は、同項の規定による通知に代えて、その通知すべき事項を当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所在地の市(特別区を含む。以下同じ。)町村の事務所又はこれに準ずる施設の掲示場に掲示することができる。この場合においては、その掲示を始めた日から二週間を経過した時に前項の規定による通知が相手方に到達したものとみなす。

5 第一項又は第二項の規定による指定は、第三項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。ただし、当該特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物の所有者又は権原に基づく占有者に対しては、第三項の規定による通知が到達した時又は前項の規定によりその通知が到達したものとみなされる時からその効力を生ずる。

6 文部科学大臣は、第一項の規定により名勝又は天然記念物の指定をしようとする場合において、その指定に係る記念物が自然環境の保護の見地から価値の高いものであるときは、環境大臣と協議しなければならない。

(仮指定)

第一百十条 前条第一項の規定による指定前において緊急の必要があると認めるときは、都道府県の教育委員会(当該記念物が指定都市の区域内に存する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会。第百三十三条を除き、以下この章において同じ。)は、史跡名勝天然記念物の仮指定を行うことができる。

2 前項の規定により仮指定を行つたときは、都道府

県の教育委員会は、直ちにその旨を文部科学大臣に報告しなければならない。

3 第一項の規定による仮指定には、前条第三項から第五項までの規定を準用する。

(所有権等の尊重及び他の公益との調整)

第百十一条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、第百九条第一項若しくは第二項の規定による指定又は前条第一項の規定による仮指定を行うに当たつては、特に、関係者の所有権、鉱業権その他の財産権を尊重するとともに、国土の開発その他の公益との調整に留意しなければならない。

2 文部科学大臣又は文化庁長官は、名勝又は天然記念物に係る自然環境の保護及び整備に関し必要があると認めるときは、環境大臣に対し、意見を述べることができる。この場合において、文化庁長官が意見を述べるときは、文部科学大臣を通じて行うものとする。

3 環境大臣は、自然環境の保護の見地から価値の高い名勝又は天然記念物の保存及び活用に関し必要があると認めるときは、文部科学大臣に対し、又は文部科学大臣を通じ文化庁長官に対して意見を述べるができる。

(解除)

第百十二条 特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物はその価値を失つた場合その他特殊の事由のあるときは、文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定又は仮指定を解除することができる。

2 第百十条第一項の規定により仮指定された史跡名勝天然記念物につき第百九条第一項の規定による指定があつたとき、又は仮指定があつた日から二年以内に同項の規定による指定がなかつたときは、仮指定は、その効力を失う。

3 第百十条第一項の規定による仮指定が適当でないと認めるときは、文部科学大臣は、これを解除することができる。

4 第一項又は前項の規定による指定又は仮指定の解除には、第百九条第三項から第五項までの規定を準用する。

(管理団体による管理及び復旧)

第百十三条 史跡名勝天然記念物につき、所有者がないか若しくは判明しない場合又は所有者若しくは第百十九条第二項の規定により選任された管理の責めに任ずべき者による管理が著しく困難若しくは不適當であると明らかに認められる場合には、文化庁長官は、適当な地方公共団体その他の法人を指定して、当該史跡名勝天然記念物の保存のため必要な管理及び復旧(当該史跡名勝天然記念物の保存のため必要な施設、設備その他の物件で当該史跡名勝天然記念物の所有者の所有又は管理に属するものの管理及び復旧を含む。)を行わせることができる。

2 前項の規定による指定をするには、文化庁長官は、あらかじめ、指定しようとする地方公共団体その他の法人の同意を得なければならない。

3 第一項の規定による指定は、その旨を官報で告示するとともに、当該史跡名勝天然記念物の所有者及び権原に基づく占有者並びに指定しようとする地方公共団体その他の法人に通知してする。

4 第一項の規定による指定には、第百九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第百十四条 前条第一項に規定する事由が消滅した場合その他特殊の事由があるときは、文化庁長官は、管理団体の指定を解除することができる。

2 前項の規定による解除には、前条第三項並びに第百九条第四項及び第五項の規定を準用する。

第百十五条 第百十三条第一項の規定による指定を受けた地方公共団体その他の法人(以下この章及び第十二章において「管理団体」という。)は、文部科学省令の定める基準により、史跡名勝天然記念物の管理に必要な標識、説明板、境界標、囲いその他の施設を設置しなければならない。

2 史跡名勝天然記念物の指定地域内の土地について、その土地の所在、地番、地目又は地積に異動があつたときは、管理団体は、文部科学省令の定めるところにより、文化庁長官にその旨を届け出なければならない。

3 管理団体が復旧を行う場合は、管理団体は、あらかじめ、その復旧の方法及び時期について当該史跡名勝天然記念物の所有者(所有者が判明しない場合を除く。)及び権原に基づく占有者の意見を聞かなければならない。

4 史跡名勝天然記念物の所有者又は占有者は、正当な理由がなくて、管理団体が行う管理若しくは復旧又はその管理若しくは復旧のため必要な措置を拒み、妨げ、又は忌避してはならない。

第百十六条 管理団体が行う管理及び復旧に要する費用は、この法律に特別の定めのある場合を除いて、管理団体の負担とする。

2 前項の規定は、管理団体と所有者との協議により、管理団体が行う管理又は復旧により所有者の受ける利益の限度において、管理又は復旧に要する費用の一部を所有者の負担とすることを妨げるものではない。

3 管理団体は、その管理する史跡名勝天然記念物につき観覧料を徴収することができる。

第百十七条 管理団体が行う管理又は復旧によって損失を受けた者に対しては、当該管理団体は、その通常生ずべき損失を補償しなければならない。

2 前項の補償の額は、管理団体(管理団体が地方公共団体であるときは、当該地方公共団体の教育委員会)が決定する。

3 前項の規定による補償額については、第四十一条第三項の規定を準用する。

4 前項で準用する第四十一条第三項の規定による訴えにおいては、管理団体を被告とする。

第百十八条 管理団体が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項及び第三十三条の規定を、管理団体が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第五十六条第三項の規定を準用する。

(所有者による管理及び復旧)

第百十九条 管理団体がある場合を除いて、史跡名勝天然記念物の所有者は、当該史跡名勝天然記念物

の管理及び復旧に当たるものとする。

2 前項の規定により史跡名勝天然記念物の管理に当たる所有者は、特別の事情があるときは、適当な者を専ら自己に代わり当該史跡名勝天然記念物の管理の責めに任ずべき者(以下この章及び第十二章において「管理責任者」という。)に選任することができる。この場合には、第三十一条第三項の規定を準用する。

第二百二十条 所有者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条、第三十三条並びに第十五条第一項及び第二項(同条第二項については、管理責任者がある場合を除く。)の規定を、所有者が行う管理及び復旧には、第三十五条及び第四十七条の規定を、所有者が変更した場合の権利義務の承継には、第五十六条第一項の規定を、管理責任者が行う管理には、第三十条、第三十一条第一項、第三十二条第三項、第三十三条、第四十七条第四項及び第一百五十二条第二項の規定を準用する。

(管理に関する命令又は勧告)

第二百二十一条 管理が適当でないため史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、衰亡し、又は盗み取られるおそれがあると認めるときは、文化庁長官は、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、管理方法の改善、保存施設の設置その他管理に関し必要な措置を命じ、又は勧告することができる。

2 前項の場合には、第三十六条第二項及び第三項の規定を準用する。

(復旧に関する命令又は勧告)

第二百二十二条 文化庁長官は、特別史跡名勝天然記念物がき損し、又は衰亡している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な命令又は勧告をすることができる。

2 文化庁長官は、特別史跡名勝天然記念物以外の史跡名勝天然記念物が、き損し、又は衰亡している場合において、その保存のため必要があると認めるときは、管理団体又は所有者に対し、その復旧について必要な勧告をすることができる。

3 前二項の場合には、第三十七条第三項及び第四項の規定を準用する。

(文化庁長官による特別史跡名勝天然記念物の復旧等の施行)

第二百二十三条 文化庁長官は、次の各号のいずれかに該当する場合においては、特別史跡名勝天然記念物につき自ら復旧を行い、又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置をすることができる。

一 管理団体、所有者又は管理責任者が前二条の規定による命令に従わないとき。

二 特別史跡名勝天然記念物がき損し、若しくは衰亡している場合又は滅失し、き損し、衰亡し、若しくは盗み取られるおそれのある場合において、管理団体、所有者又は管理責任者に復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置をさせることが適当でないと認められるとき。

2 前項の場合には、第三十八条第二項及び第三十九条から第四十一条までの規定を準用する。

(補助等に係る史跡名勝天然記念物譲渡の場合の納付金)

第二百二十四条 国が復旧又は滅失、き損、衰亡若しくは盗難の防止の措置につき第百十八条及び第百二十条で準用する第三十五条第一項の規定により補助金を交付し、又は第百二十一条第二項で準用する第三十六条第二項、第百二十二条第三項で準用する第三十七条第三項若しくは前条第二項で準用する第四十条第一項の規定により費用を負担した史跡名勝天然記念物については、第四十二条の規定を準用する。

(現状変更等の制限及び原状回復の命令)

第二百二十五条 史跡名勝天然記念物に関しその現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をしようとするときは、文化庁長官の許可を受けなければならない。ただし、現状変更については維持の措置又は非常災害のために必要な応急措置を執る場合、保存に影響を及ぼす行為については影響の軽微である場合は、この限りでない。

2 前項ただし書に規定する維持の措置の範囲は、

巻末資料9 文化財保護法(抜粋)

文部科学省令で定める。

3 第一項の規定による許可を与える場合には、第四十三条第三項の規定を、第一項の規定による許可を受けた者には、同条第四項の規定を準用する。

4 第一項の規定による処分には、第百十一条第一項の規定を準用する。

5 第一項の許可を受けることができなかったことにより、又は第三項で準用する第四十三条第三項の許可の条件を付せられたことによつて損失を受けた者に対しては、国は、その通常生ずべき損失を補償する。

6 前項の場合には、第四十一条第二項から第四項までの規定を準用する。

7 第一項の規定による許可を受けず、又は第三項で準用する第四十三条第三項の規定による許可の条件に従わないで、史跡名勝天然記念物の現状を変更し、又はその保存に影響を及ぼす行為をした者に対しては、文化庁長官は、原状回復を命ずることができる。この場合には、文化庁長官は、原状回復に関し必要な指示をすることができる。

(関係行政庁による通知)

第二百六条 前条第一項の規定により許可を受けなければならないこととされている行為であつてその行為をするについて、他の法令の規定により許可、認可その他の処分で政令に定めるものを受けなければならないこととされている場合において、当該他の法令において当該処分の権限を有する行政庁又はその委任を受けた者は、当該処分をするときは、政令の定めるところにより、文化庁長官(第百八十四条第一項の規定により前条第一項の規定による許可を都道府県又は市の教育委員会が行う場合には、当該都道府県又は市の教育委員会)に対し、その旨を通知するものとする。

(復旧の届出等)

第二百七条 史跡名勝天然記念物を復旧しようとするときは、管理団体又は所有者は、復旧に着手しようとする日の三十日前までに、文部科学省令の定めるところにより、文化庁長官にその旨を届け出なければならない。ただし、第百二十五条第一項の規定により許可を受けなければならない場合その他文部科学省令の定める

場合は、この限りでない。

2 史跡名勝天然記念物の保護上必要があると認めるときは、文化庁長官は、前項の届出に係る史跡名勝天然記念物の復旧に関し技術的な指導と助言を与えることができる。

(環境保全)

第二百八条 文化庁長官は、史跡名勝天然記念物の保存のため必要があると認めるときは、地域を定めて一定の行為を制限し、若しくは禁止し、又は必要な施設をすることを命ずることができる。

2 前項の規定による処分によつて損失を受けた者に対しては、国は、その通常生ずべき損失を補償する。

3 第一項の規定による制限又は禁止に違反した者には、第百二十五条第七項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項から第四項までの規定を準用する。

(管理団体による買取りの補助)

第二百九条 管理団体である地方公共団体その他の法人が、史跡名勝天然記念物の指定に係る土地又は建造物その他の土地の定着物で、その管理に係る史跡名勝天然記念物の保存のため特に買い取る必要があると認められるものを買い取る場合には、国は、その買取りに要する経費の一部を補助することができる。

2 前項の場合には、第三十五条第二項及び第三項並びに第四十二条の規定を準用する。

(保存のための調査)

第三十条 文化庁長官は、必要があると認めるときは、管理団体、所有者又は管理責任者に対し、史跡名勝天然記念物の現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき報告を求めることができる。

第三十一条 文化庁長官は、次の各号のいずれかに該当する場合において、前条の報告によつてもなお史跡名勝天然記念物に関する状況を確認することができず、かつ、その確認のため他に方法がないと認めるときは、調査に当たる者を定め、その所在する土地又はその隣接地に立ち入つてその現状又は管理、復旧若しくは環境保全の状況につき実地調査及び土地の発掘、

障害物の除却その他調査のため必要な措置をさせることができる。ただし、当該土地の所有者、占有者その他の関係者に対し、著しい損害を及ぼすおそれのある措置は、させてはならない。

一 史跡名勝天然記念物に関する現状変更又は保存に影響を及ぼす行為の許可の申請があつたとき。

二 史跡名勝天然記念物がき損し、又は衰亡しているとき。

三 史跡名勝天然記念物が滅失し、き損し、衰亡し、又は盗み取られるおそれのあるとき。

四 特別の事情によりあらためて特別史跡名勝天然記念物又は史跡名勝天然記念物としての価値を調査する必要があるとき。

2 前項の規定による調査又は措置によつて損失を受けた者に対しては、国は、その通常生ずべき損失を補償する。

3 第一項の規定により立ち入り、調査する場合には、第五十五条第二項の規定を、前項の場合には、第四十一条第二項から第四項までの規定を準用する。

(登録記念物)

第百三十二条 文部科学大臣は、史跡名勝天然記念物(第百十条第一項に規定する仮指定を都道府県の教育委員会が行つたものを含む。)以外の記念物(第百八十二条第二項に規定する指定を地方公共団体が行つているものを除く。)のうち、その文化財としての価値にかんがみ保存及び活用のための措置が特に必要とされるものを文化財登録原簿に登録することができる。

2 前項の規定による登録には、第五十七条第二項及び第三項、第百九条第三項から第五項まで並びに第百十一条第一項の規定を準用する。

第百三十三条 前条の規定により登録された記念物(以下「登録記念物」という。)については、第五十九条第一項から第五項まで、第六十四条、第六十八条、第百十一条第二項及び第三項並びに第百十三条から第百二十条までの規定を準用する。この場合において、第五十九条第一項中「第二十七条第一項の規定により重

要文化財に指定したとき」とあるのは「第百九条第一項の規定により史跡名勝天然記念物に指定したとき(第百十条第一項に規定する仮指定を都道府県の教育委員会(当該記念物が指定都市の区域内に存する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会)が行つたときを含む。)」と、同条第四項中「所有者に通知する」とあるのは「所有者及び権原に基づく占有者に通知する。ただし、通知すべき相手方が著しく多数で個別に通知し難い事情がある場合には、文部科学大臣は、当該通知に代えて、その通知すべき事項を当該登録記念物の所在地の市町村の事務所又はこれに準ずる施設の掲示場に掲示することができる。この場合においては、その掲示を始めた日から二週間を経過した時に当該通知が相手方に到達したものとみなす」と、同条第五項中「抹消には、前条第二項の規定を準用する」とあるのは「抹消は、前項の規定による官報の告示があつた日からその効力を生ずる。ただし、当該登録記念物の所有者又は権原に基づく占有者に対しては、前項の規定による通知が到達した時又は同項の規定によりその通知が到達したものとみなされる時からその効力を生ずる」と、第百十三条第一項中「不適當であると明らかに認められる場合には」とあるのは「不適當であることが明らかである旨の関係地方公共団体の申出があつた場合には、関係地方公共団体の意見を聴いて」と、第百十八条及び第百二十条中「第三十条、第三十一条第一項」とあるのは「第三十一条第一項」と、「準用する」とあるのは「準用する。この場合において、第三十一条第一項中「並びにこれに基いて発する文部科学省令及び文化庁長官の指示に従い」とあるのは「及びこれに基づく文部科学省令に従い」と読み替えるものとする」と、第百十八条中「第三十五条及び第四十七条の規定を、管理団体が指定され、又はその指定が解除された場合には、第五十六条第三項」とあるのは「第四十七条第四項」と、第百二十条中「第三十五条及び第四十七条の規定を、所有者が変更した場合の権利義務の承継には、第五十六条第一項」とあるのは「第四十七条第四項」と読み替えるものとする。

史跡 加曾利貝塚保存活用計画書

発 行 平成29(2017)年1月31日
制作・編集 千葉市教育委員会事務局 生涯学習部 文化財課

〒260-8730
千葉県千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー11 階
電話 : 043-245-5960
e-mail : bunkazai.EDL@city.chiba.lg.jp



加曾利貝塚PR大使 かそりーぬ